

南部拠点地区遺跡群No.5

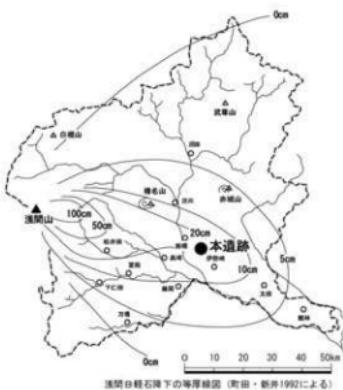
前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.5

2010.9

前橋市教育委員会

南部拠点地区遺跡群No.5

前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.5



2010.9

前橋市教育委員会



調査区（4区）から樓名山・浅間山を望む



Hr-FA層下水田跡（2区）



Hr-FA層下水田跡 断ち割り（2区）

巻頭写真 2



As-B 層下水田跡 1区 区画 28 の水田面



As-B 層下水田跡 2区 区画 32 の水田面



As-B 層下水田跡 3区 区画 46 の水田面



As-B 層下水田跡 4区 区画 79 の水田面



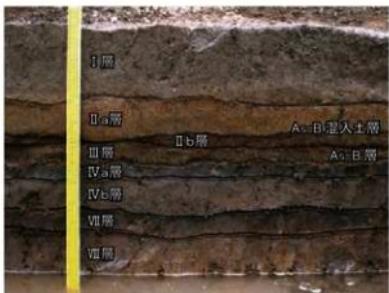
As-B 層下水田跡 1号足跡列 (1区)



As-B 層下水田跡 畦畔断ち割り (3区)



As-B 層下水田跡 畦畔の盛り上がり (4区)



基本層序 (1区)

序

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する南部拠点地区遺跡群No.5は市の南東部に位置し、前橋南インターインター一帯の土地区画整理事業に伴う発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108年）の浅間噴火に伴う軽石に覆われた水田跡が発見されました。この水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、前橋・高崎台地に広く展開する貴重な条里製造構です。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんには厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成22年9月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例　　言

1. 本書は、前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う南部拠点地区遺跡群No.5の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、前橋市教育委員会（教育長 佐藤博之）が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、同研究所員の有山徑世である。
3. 発掘・整理調査期間は、平成21年12月14日～平成22年9月30日である。
4. 本遺跡は群馬県前橋市下阿内町4番地ほかに所在し、遺跡のコード・面積は下記の通りである。
遺跡コード：21668　面積：1面 12,900 m²、2面 2,235 m²、合計 15,135 m²
5. 本書の編集実務は、有限会社毛野考古学研究所が行い、同研究所員の有山が担当した。
6. 本文の執筆については、Iを神宮聰（前橋市教育委員会）、II～VIIを有山が担当した。
7. 調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
8. 発掘調査・整理作業に携わった方々は下記の通りである。（順不同・敬称略）

〔発掘調査〕 井口まり子 今井豊和 碓井俊夫 木村英男 駒形邦子 斎藤邦子 斎藤繁樹 設楽武久

篠原 朗 清水宏通 志村久子 城田恵一 鈴木 浩 高井雄一 高木周平 高橋道敏

高橋百合子 富田益夫 中島久子 中島ミホ子 中野佐智子 野山弘志 春原正克

樋口久雄 福田鈴美 牧野完一 松田路子 松本嘉久治 溝口房子 村上信子 湯浅美和子

〔整理作業〕 小出琢磨 小野澤絹子 合田幸子 関小百里 潤尾則子 武士久美子 永島美和子 真下弘美

9. 発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（順不同・敬称略）

前橋市南部拠点東地区土地区画整理組合 株式会社ベイシア 株式会社測研 山下工業株式会社 JT空撮
坂口 一 吉田有里

凡　　例

1. 掘図における座標値は世界測地系（国家座標第IX系）を使用した。方位記号は座標北を示す。
2. 等高線や遺構断面図における水準値は海拔標高を示す。単位はmである。
3. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、各掘図中にスケールを付した。
4. 遺物観察表に示した計測値の（ ）は復元推定値を表す。
5. グリッドは、原点(X=37,300・Y=-67,400)より西から東へX 0、X 1…、北から南へY 0、Y 1…と付した。
6. 本調査における遺構断面図および出土遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2006）を使用した。
7. 本書ではテフラの呼称として次の記号を用いた。
As-A : 1783(天明3)年に噴出した浅間A軽石。 As-B : 1108(天仁元)年に噴出した浅間Bテフラ。
Hr-FA : 6世紀初頭に噴出した榛名一二ツ岳波川テフラ。 As-C : 4世紀初頭に噴出した浅間C軽石。
8. 水田の計測は畦畔の下端で行った。面積はブランメーターで3回計測し、その平均値を採用した。
9. 本書掲載の第1図は国土交通省国土地理院発行1/200,000「長野」・「宇都宮」、第2図は同発行1/25,000「前橋」・「高崎」、第3図は前橋市都市計画図1/2,500を一部改編して使用した。
10. 表紙には『昭和61年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

目 次

卷頭写真

序

例言 凡例

目次

I 調査に至る経緯	1	V 中近世以降の遺構と遺物	9
II 遺跡の位置と環境	1	1 中近世以降の溝	9
1 地理的環境	1	2 中近世以降の土坑	16
2 歴史的環境	2		
III 調査の方法と経過	4		
IV 遺跡の概要	5	VI 平安時代末期 (As-B 層下面) の遺構と遺物	18
1 遺構・遺物の概要	5	1 As-B 層下水田跡	18
2 基本層序	5	2 As-B 層下足跡列	19
		3 As-B 層下産み列	21
		VII 古墳時代から平安時代の遺構と遺物	35
		1 Hr-FA 層下水田跡	35
		2 古墳時代から平安時代の溝	35
		VIIIまとめ	41
		写真図版	
		抄録 奥付	

挿図目次

第 1 図 遺跡の位置	1	第 19 図 3 区 As-B 層下水田跡 (1)	26
第 2 図 周辺の遺跡	3	第 20 図 3 区 As-B 層下水田跡 (2)	27
第 3 図 調査区の位置図	4	第 21 図 3 区 As-B 層下水田跡 (3)	28
第 4 図 基本層序	5	第 22 図 3 区 As-B 層下水田跡 (4)	29
第 5 図 全体図	6	第 23 図 4 区 As-B 層下水田跡 (1)	30
第 6 図 第 1 面の全体図	7	第 24 図 4 区 As-B 層下水田跡 (2)	31
第 7 図 第 2 面の全体図	8	第 25 図 As-B 層下足跡列 (1)・産み列	33
第 8 図 中近世以降の溝 (1)	11	第 26 図 As-B 層下足跡列 (2)	34
第 9 図 中近世以降の溝 (2)	12	第 27 図 2 区 Hr-FA 層下水田跡・出土遺物	36
第 10 図 中近世以降の出土遺物	13	第 28 図 4 区 Hr-FA 層下水田跡	37
第 11 図 中近世以降の溝 (3)	14	第 29 図 古墳時代から平安時代の溝 (1)	38
第 12 図 中近世以降の溝 (4)	15	第 30 図 古墳時代から平安時代の溝 (2)	39
第 13 図 中近世以降の土坑 (1)	16	第 31 図 古墳時代から平安時代の溝 (3)	40
第 14 図 中近世以降の土坑 (2)	17	第 32 図 古墳時代から平安時代における周辺の 水田開闢遺跡	42
第 15 図 1 区 As-B 層下水田跡 (1)	22	第 33 図 平安時代末期における周辺の 水田開闢遺跡	43
第 16 図 1 区 As-B 層下水田跡 (2)	23	第 34 図 As-B 層下水田面の状態	44
第 17 図 1 区 As-B 層下水田跡 (3)	24		
第 18 図 2 区 As-B 層下水田跡	25		

表 目 次

第 1 表 中近世以降の出土遺物観察表	13	第 5 表 As-B 層下水田跡区画計測表 (3)	32
第 2 表 中近世以降の土坑計測表	16	第 6 表 古墳時代の出土遺物観察表	36
第 3 表 As-B 層下水田跡区画計測表 (1)	21	第 7 表 Hr-FA 層下水田跡区画計測表	37
第 4 表 As-B 層下水田跡区画計測表 (2)	24		

図版目次

巻頭写真 1

- 調査区（4区）から棲名山・浅間山を望む
Hr-FA 層下水田跡（2区）
Hr-FA 層下水田跡 畦畔近景（2区）
Hr-FA 層下水田跡 断ち割り（2区）

巻頭写真 2

- As-B 層下水田跡 1区 区画 28 の水田面
As-B 層下水田跡 2区 区画 32 の水田面
As-B 層下水田跡 3区 区画 46 の水田面
As-B 層下水田跡 4区 区画 79 の水田面
As-B 層下水田跡 1号足跡列（1区）
As-B 層下水田跡 畦畔断ち割り（3区）
As-B 層下水田跡 畦畔の盛り上がり（4区）

基本層序（1区）

図版 1

- 1区第1面全景（上が北）
1区 As-B 層下水田跡（南西から）
1区 As-B 層下水田跡 水口 6（西から）
1区 As-B 層下水田跡 畦畔疊出土状況（北から）
1区 As-B 層下水田跡 1号足跡列（北東から）

図版 2

- 2区第1面全景（上が北）
2区 As-B 層下水田跡（東から）
2区 As-B 層下水田跡 畦畔（北から）
2区 As-B 層下水田跡 2号足跡列（東から）
2区 As-B 層下水田跡 作業風景（西から）

図版 3

- 3区第1面全景（上が北）
3区 As-B 層下水田跡（東から）

図版 4

- 3区 As-B 層下水田跡 1号畦畔（北から）
3区 As-B 層下水田跡 畦畔（北から）
3区 As-B 層下水田跡 畦畔疊出土状況（北から）
3区 As-B 層下水田跡 水口 11（北から）
4区第1面全景（上が北）

図版 5

- 4区 As-B 層下水田跡（北東から）
4区 As-B 層下水田跡 畦畔（東から）
4区 As-B 層下水田跡 畦畔（南東から）
4区 As-B 層下水田跡 畦畔断ち割り（北から）
4区 As-B 層下水田跡 水口 13（南東から）
4区 As-B 層下水田跡 14号足跡列（南東から）
4区 As-B 層下水田跡 足跡近景（北西から）
4区 As-B 層下水田跡 作業風景（南西から）

図版 6

- 2区 Hr-FA 層下水田跡（南から）
2区 Hr-FA 層下水田跡（南から）
2区 Hr-FA 層下水田跡 畦畔（北から）
2区 Hr-FA 層下水田跡 畦畔（南東から）
2区 Hr-FA 層下水田跡 遺物出土状況（南から）

図版 7

- 13号溝全景（南から）
13号溝断面（南西から）
14号溝全景（南から）
14号溝断面（北東から）
4区 Hr-FA 層下水田跡（上が西）

図版 8

- 4区 Hr-FA 層下水田跡 断ち割り（南から）
15号溝断面（北から）
16号溝全景（北から）
16号溝断面（南から）
2号溝全景（北から）
3号溝全景（北から）
3号溝断面（南から）
4号溝全景（東から）

図版 9

- 5号溝全景（北から）
5号溝断面（北から）
6号溝全景（北から）
7・8号溝全景（北から）
9号溝断面（南から）
10号溝全景（西から）
11号溝全景（東から）
12号溝全景（南から）

図版 10

- 1号土坑全景（北から）
2号土坑全景（北から）
3号土坑全景（南から）
11号土坑全景（南から）

出土遺物

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴い実施された。平成21年10月6日付けで前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業組合 理事長 持田頼男（以下「組合」という）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会においては、現体制では直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織を導入し調査を実施したいとの回答をした。民間調査組織の採用については、市内の民間調査組織3者より見積書を徴収し組合で検討した結果、有限会社毛野考古学研究所 取締役 長井正欣（以下「毛野考古学研究所」という）に決定した。民間調査組織の決定を受け、平成21年11月19日付けで市教育委員会・組合及び毛野考古学研究所との間で埋蔵文化財の取扱いに関する協定書を締結し、その後、11月30日付けで組合と毛野考古学研究所との間で発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

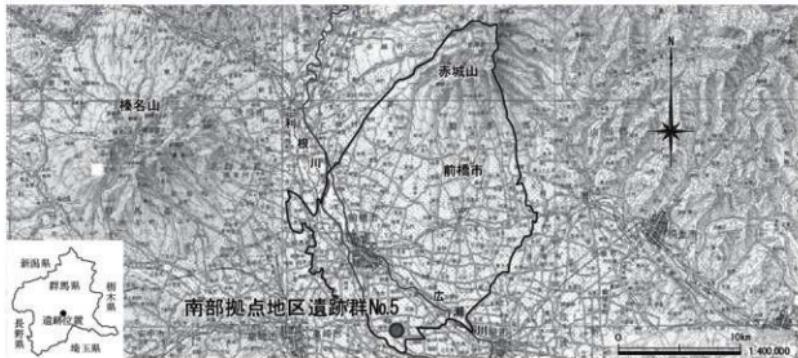
なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群No.5」（遺跡コード：21668）の「南部拠点地区」は区画整理事業名を採用し、数字の「No.5」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡は、前橋市南東部に展開する前橋台地上の後背湿地に立地し、標高は約76mである。前橋台地は、利根川が赤城山・榛名山の間から関東平野に流出する部分に広がる緩傾斜の扇状地性台地である。浅間山噴火による山体崩壊（約2万年前）を原因とする「前橋泥流」が、利根川に沿って運ばれることで形成された。この泥流層は、全体的に灰色・黒色・赤色の角礫が混入し、黄褐色で締まりが強い特徴を有する。

前橋台地上には、河川・旧河川が北西～南東方向に流れ、各所に自然堤防や後背湿地が形成されている。本遺跡の近辺では、北西から南東側にかけて利根川、北東側に端気川が流下する。利根川は本遺跡周辺において前橋台地を貫流するが、前橋台地の北東側に位置する広瀬川低地帯から、天文年間（16世紀）に洪水ないし人为的な改変により変流したものと想定されている。一方、端気川は利根川の支流に相当するが、かつては前橋台地北部の湿地帯に源をもつ自然流路であった。この水系は、古墳時代から水田開発に利用されてきたことが明らかにされている。



第1図 遺跡の位置

2 歴史的環境

以下では、本調査と関連する古墳時代から中世の事例を中心に、周辺の成果を概観する。

古墳時代は数多くの遺跡が存在する。集落は微高地に占地するものの、時期ごとの変遷が著しい。前期は西善尺司遺跡（2）・徳丸仲田遺跡（4）・公田池尻遺跡（13）・下滝梅崎遺跡（43）などで確認される。前期の集落は後期には水田化してしまうような比較的標高の低い土地に営まれることがあり、横手湯田遺跡（33）・横手早稲田遺跡（37）では周溝状の排水施設を伴う住居跡が構築されている。中期は横手湯田遺跡・横手早稲田遺跡、後期は川曲遺跡（9）・下佐鳥遺跡（10）・公田東遺跡（12）・公田池尻遺跡などで確認されている。

後背湿地では、火山灰や洪水堆積物を鍵層として、様々な時期の水田跡が調査されている。周辺では、4世紀初頭のAs-C層下水田跡、4世紀初頭以降のAs-C混入土層水田跡・As-C混入土層上水田跡、6世紀初頭のHr-FA層下水田跡、6世紀中葉のHr-FP層下水田跡、Hr-FP泥流層下水田跡などが報告されている¹⁾。また、水田の開発に伴って水路や堰が整備されるようになり、多くの溝跡が調査されている。徳丸仲田遺跡では前期に開削された大溝が検出されており、下流の砂町遺跡（53）まで約2kmにわたることが見込まれている。

これらの集落やその生産活動を牽引したであろう有力者層の墳墓として、広瀬川右岸の自然堤防上や井野川・島川流域に多くの古墳が集中する。これらは前期から後期まで継続して構築され、前期の元島名將軍塚古墳・前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳、後期の金冠塚古墳（B）・綿貫觀音山古墳などは、その規模や出土遺物などが卓越することで著名である。なお、前期には微高地の集落域に接して方形周溝墓が構築され、周辺では西善尺司遺跡・公田東遺跡・下滝梅崎遺跡などで見受けられる。

奈良・平安時代には、律令制の導入と共に前橋市元総社町付近で国府が造営され、国分僧寺・国分尼寺が建立される。集落は前時代に引き続き微高地に占地し、西善尺司遺跡（1）・西善尺司遺跡・徳丸仲田遺跡・徳丸高堰遺跡（5・6）・公田東遺跡・公田池尻遺跡・西田遺跡（20）・西田II遺跡（22）・西田VI遺跡（25）・鶴光路複橋遺跡（26）・鶴光路複橋II遺跡（27）・西横手遺跡群（39）などで確認されている。砂町遺跡では7世紀後半に造られた官道「東山道駅跡」に推定される道状遺構が見つかっており、近辺の一万田遺跡では大規模な掘立柱建物跡・柵列などが確認されている。

後背湿地では、平安時代末期の天仁元（1108）年に浅間山の噴火で埋没したAs-B層下水田跡がほとんどの遺跡で検出されている²⁾。西田遺跡では微高地に営まれていた集落の上にまで水田開発が及んだ様子が窺える。これらの水田跡は一町四方の方格地割を採用した、いわゆる「条里地割」に沿うものが多い。

中世には、微高地に排水施設などの機能を有する環濠遺跡群が多数占地する。周辺では、室町時代の城郭跡である力丸城（a）、室町・戦国時代の宿阿内城（b）・新堀城（c）が著名で、力丸城は那波郡を支配する那波氏一族の居城、宿阿内城は那波氏の属城に想定されている。また、多くの遺跡で当該期の館跡、掘立柱建物跡・井戸跡・墓などを調査している³⁾。方形に密集する西田遺跡の土壤蘊群は特記されよう。

生産遺構として、利根川変流に伴う洪水などに起因する中世のAs-B混入土層水田跡、近世のAs-A層下水田跡が報告されている。これらの水田跡は前時期の条里地割を踏襲することが多い。水田跡の他に、洪水で埋没した畠や復旧溝（灰植き孔）なども散見される⁴⁾。

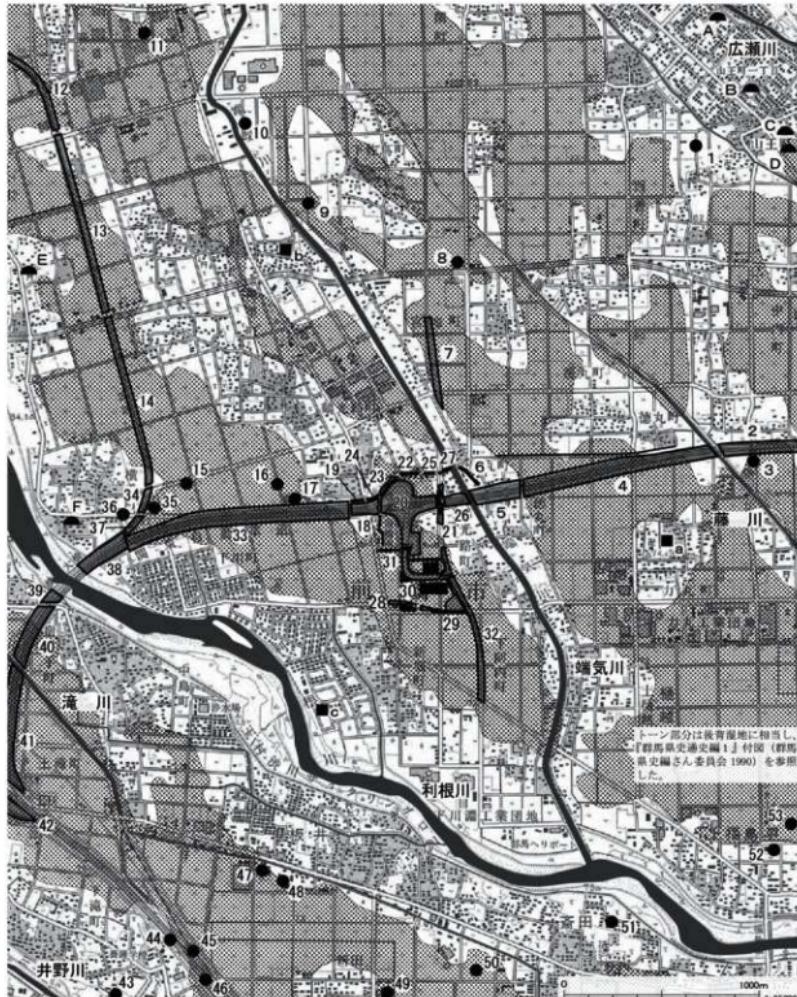
註1) 古墳時代の水田跡が検出された遺跡－As-C混入土層水田跡：4・5・12・13・18・20・40・41、As-C混入土層上水田跡：32・39・41、Hr-FA層下水田跡：2・4・12・14・20・31・33・34・37・38・39・40・41、Hr-FP層下水田跡：33・37・39・40。

Hr-FP泥流層下水田跡：34・38・40・41。

2) 奈良・平安時代の水田跡が検出された遺跡－2・4・5・7・11・12・13・14・15・16・17・18・20・21・22・23・24・25・26・28・29・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・47・49・50・52・53。

3) 中近世の遺構が検出された遺跡－船跡など：1・2・3・4・5・6・12・13・15・18・20・23・26・31・33・39・40・41・42・43、火葬土坑：2・41・43、土葬墓：2・3・14・18・20・26・32・39。

4) 中近世の水田跡が検出された遺跡－As-B混入土層水田跡など：12・13・14・23・33・34・35・37・38・40、As-A層下水田跡など：12・41・42、復旧溝など：26・31・32・33・34・37・38・39・40・41・42・47・48・50。



- 1 西吾妻治屋遺跡 2 西吾妻司遺跡・西吾妻司II遺跡 3 西吾妻司III遺跡 4 德丸仲田遺跡・徳丸仲田II遺跡・徳丸仲田III遺跡・徳丸仲田IV遺跡
 5 德丸高堰道路・徳丸高堰II遺跡 6 德丸高堰III道路・徳丸高堰IV道路 7 宮地中田遺跡 8 斎田遺跡 9 川曲遺跡 10 幸鳥遺跡
 11 上佐鳥中原前遺跡・上佐鳥中原前II遺跡 12 公田東遺跡 13 公田池尻遺跡 14 亀里平塚遺跡 15 亀里鉢面II遺跡
 16 亀里曲II遺跡 17 鶴光路被引遺跡 18 村中遺跡 19 村中II遺跡 20 西田遺跡 21 西田遺跡・西田IV遺跡 22 西田II遺跡 23 西田III遺跡
 24 西田V遺跡 25 西田VI遺跡 26 鶴光路模様縫跡 27 鶴光路模様縫II遺跡 28 南部熱点地区遺跡群No.1 29 南部熱点地区遺跡群No.2
 30 南部熱点地区遺跡群No.5 31 下内志町湖遺跡 32 下内志今遺跡 33 横手湯田遺跡・横手湯田II遺跡・横手湯田遺跡群 34 横手湯田IV遺跡・
 横手湯田V遺跡・横手湯田VI遺跡 34 横手宮田遺跡 35 横手宮田II遺跡 36 井戸南遺跡 37 横手早稻田遺跡 38 横手南川端遺跡
 39 南横手遺跡群 40 宿横手三波川遺跡 41 上流復町北遺跡 42 上流五反畠遺跡 43 下流梅崎遺跡 44 梅川B遺跡 45 上流社宮司遺跡
 46 梅川C遺跡 47 天神前遺跡 48 天神前II遺跡 49 中道西遺跡 50 一本木遺跡 51 田口下屋敷遺跡 52 金免遺跡 53 研石遺跡
 A 亀塚山古墳 B 金冠塚古墳 C 文殊山古墳 D 阿弥陀山古墳 E 下川湖3号古墳 F 浅間神社古墳 a 丸城 b 前内城 c 新堀城

第2図 周辺の遺跡

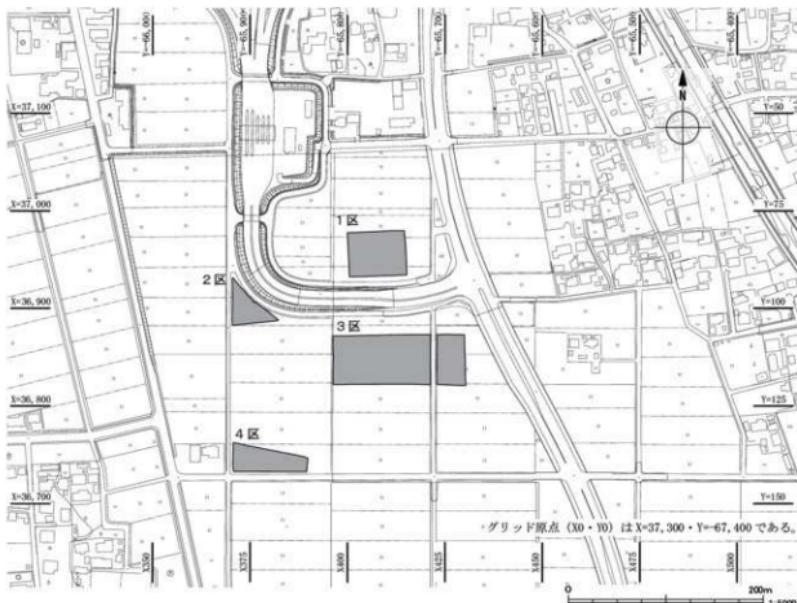
III 調査の方法と経過

発掘調査は平成 21 年 12 月 14 日から平成 22 年 3 月 27 日にかけて実施した。調査区は 4 カ所に分かれ、北側の調査区から 1 ~ 4 区と呼称した（第 3 図）。また、前橋市教育委員会の試掘調査結果を受けて 2 面の遺構確認面が設定され、第 1 面が As-B 層下水田跡、第 2 面が As-C 混入土層水田跡の検出を主目的としている。第 2 面は 3 m 幅の試掘坑による調査を基本とする。

発掘調査に際しては、調査範囲・廐土置場などを設定し、安全対策を講じた（12 月 14 日～12 月 22 日）。第 1 面の調査は、始めに As-B 一次堆積層（Ⅲ層）上面までをバックホーおよびダンプを使用して掘削した（12 月 16 日～1 月 21 日）。その後、As-B 軽石の上位を鋤籠、水田土を移植ゴテで除去して、水田面を検出した（1 月 5 日～2 月 24 日）。なお、As-B 層下水田跡の調査と並行して中世以降の遺構調査も実施している。第 2 面は、As-C 混入土層水田跡の検出を試み、上層の Hr-FA 混入土層をバックホーで除去した。その後、人力により遺構確認を行ったが、水田面や畦畔の検出には至らなかった（2 月 4 日～3 月 23 日）。2・4 区では、Hr-FA が検出されたため、Hr-FA の堆積が途切れる所まで調査範囲を拡張した。その結果、Hr-FA 層下水田跡および溝が検出された。第 2 面の調査終了後、各調査区の埋め戻しを行い、発掘調査を終了した（3 月 18 日～3 月 27 日）。

遺構の名称は、遺構種類別に通し番号を付した。遺構の図化はトータルステーションを用いた。写真撮影は 35 mm 白黒ネガ・35 mm カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを使用し、調査の進捗に合わせて随時実施した。ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は第 1 面・第 2 面の 2 度行った。

調査終了後、調査成果の整理作業、報告書作成を行った。



第 3 図 調査区の位置図

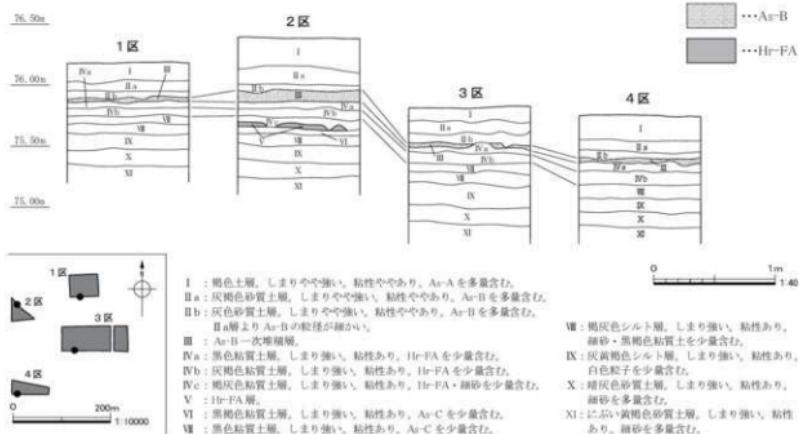
IV 遺跡の概要

1 遺構・遺物の概要

本遺跡では、中近世以降、平安時代末期、古墳時代から平安時代の3期にわたる土地利用形態を追うことができた。中近世以降の遺構はAs-B層を擾拌するもので、As-B降下(1108年)以降を対象とする。当該期の遺構として溝12条、土坑18基が確認された。遺物は、中近世から近現代までの陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。近世の用水路と推測される3号溝からは、寛永通宝がまとまって出土している。平安時代末期の遺構はAs-B一次堆積層下で検出されたものを対象とする。当該期の遺構として調査区全域でAs-B層下水田跡が検出され、水田区画89区画、足跡15列、溝1列が確認できた。遺物は出土しなかった。古墳時代から平安時代の遺構はAs-C層を擾拌し、As-B層下に埋没するものを対象とする。当該期の遺構としてHr-FA層下水田跡、溝4条が確認された。Hr-FA層下水田跡は2・4区で検出され、Hr-FA層が良好に残存する2区では水田区画を捉えることができた。遺物は、2区Hr-FA層下水田跡から土師器環片が出土したほか、溝や試掘坑から土師器・須恵器細片が少量出土している。

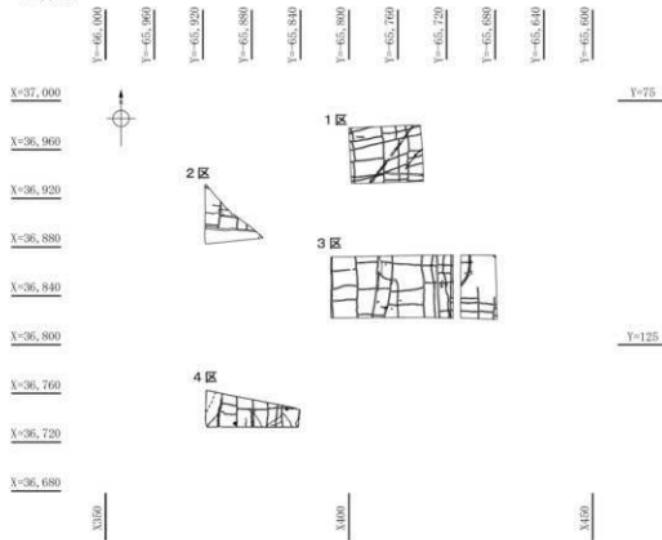
2 基本層序

調査区は後背湿地に立地しており、北西から南東に緩やかに傾斜する。基本層序は以下のI～XI層が認められた。I層は表土層で、現代の水田耕作土である。II層はAs-Bの混入土層である。III層はAs-B層で、最下部に薄い灰青色火山灰や粗粒の白色軽石が見られることから、一次堆積層と判断した。残りの良い場所では7～10cmの堆積を確認している。IV層は粘土質で、いわゆる「Hr-FA混入土層」である。3細分が可能で、IVa層はAs-B層下水田耕作土、IVb・c層は平安時代の洪水層起源と推測される耕作土に対比される。V層は黄褐色のHr-FA層である。VI層はAs-Cの混入する黒褐色粘質土層で、Hr-FA層下水田耕作土に相当する。IVc・V・VI層はHr-FA層下水田跡の分布域(2区・4区東端)でのみ検出された。VII層はAs-Cの混入する黒色粘質土層で、As-C降下以降の耕作土に対比される。VIII・IX層はシルト層、X・XI層は砂質土層である。

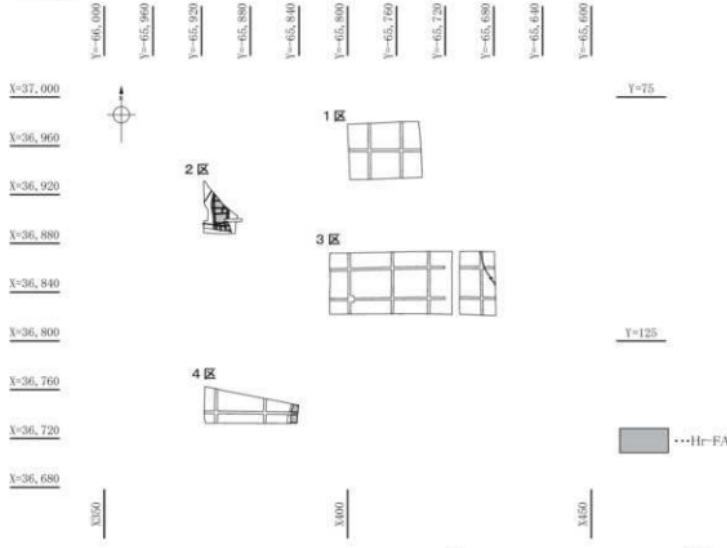


第4図 基本層序

第1面 全体図

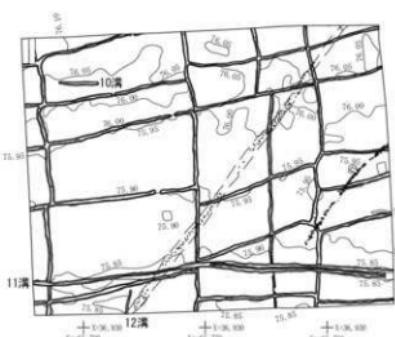


第2面 全体図

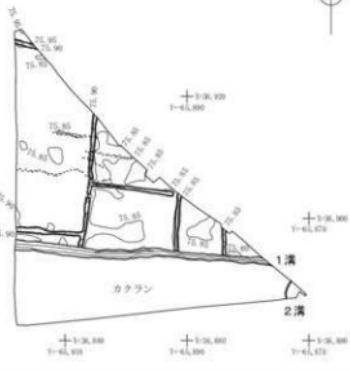


第5図 全体図

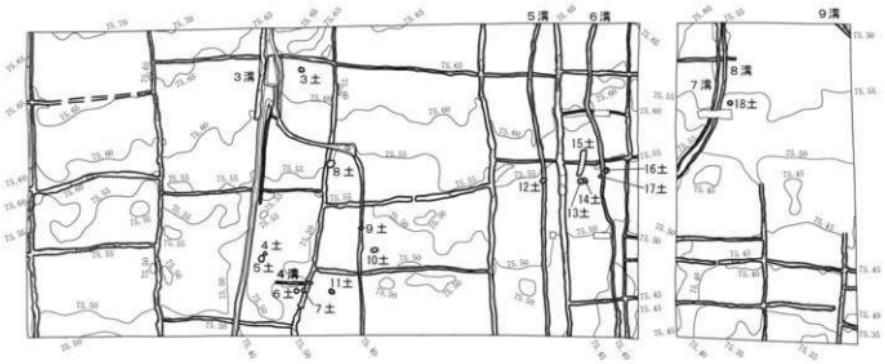
1区

+136.90
T=61.791+136.90
T=61.791+136.90
T=61.791

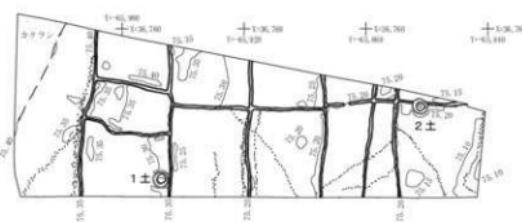
2区

+136.90
T=61.910+136.90
T=61.910

3区

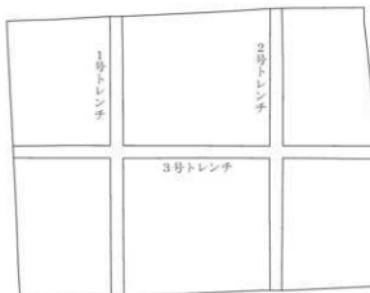


4区

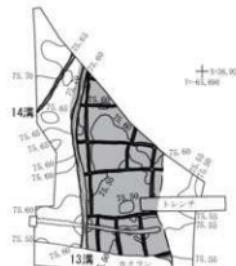


第6図 第1面の全体図

1区

+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750

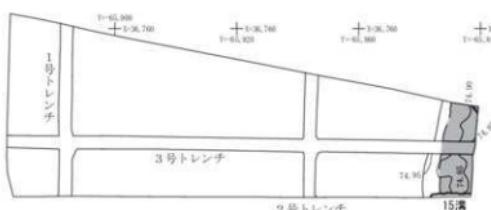
2区

+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750+136,900
T-65,750

3区



4区



...Hr-FA

0 40m 1:800

第7図 第2面の全体図

V 中近世以降の遺構と遺物

1 中近世以降の溝

1号溝（遺構：第8図）

位置：2区南側に位置し、東・西側は調査区外にかかる。**形態：**東西方向へ直行し、底面は西側が低い。断面形は浅いU字状を呈する。**計測値：**主軸方位N-93°-E、残存長41.6m、幅0.82~1.77m、確認面からの深さ21~39cm。**埋没状態：**As-A・小縄を含む灰黄褐色砂質土が堆積する。上層からは丸材・角材が横倒しの状態で出土した。**遺物：**近世～近現代の陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。**時期：**埋没状態・出土遺物より、近現代に比定される。

2号溝（遺構：第12図、図版8）

位置：2区南東端に位置し、北・南・東側は調査区外にかかる。**形態：**部分的な検出のため不明である。底面は南側が若干低い。**計測値：**主軸方位N-20°-E、残存長2.90m、残存幅3.37m、確認面からの深さ7~8cm。**埋没状態：**非常に多くのAs-Bを含む浅黄色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

3号溝（遺構：第9図、図版8／遺物：第10図、第1表、図版10）

位置：3区中央より東側に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**重複：**9号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。**形態：**南北方向へ直行する。北側に溜井状の深い窪みがあり、その先から大きく2方向へ分流する(3a～3c)。3aは本体と走行方位を同じくし、そのまま南へ直進する。3bは東へ(N-73°-W)曲った後、再び南へ(N-1°-W)走行方位を変える。3cは3bへの分岐点から派生する。南へ直行するが、掘り込みが浅く途中で消失する。底面は全て南側が低い。断面形は概ね逆台形状を呈する。木杭痕が北側に多く残っている。角材と丸材が認められ、規模は幅9~15cm、厚さ8~13cmである。**計測値：**主軸方位N-8°-E。残存長50.91m。幅は3号溝本体が1.62~4.14m、3aが0.80~1.20m、3bが0.40~1.87m、3cが0.25~0.45m。確認面からの深さは、本体が39~41cm、溜井状部分が44~62cm、3aが21~30cm、3bが6~14cm、3cが4~11cm。**埋没状態：**主に多量の砂を含む褐灰色砂質土が堆積する。断面観察により、一度埋没した後に掘り直されたことが看取される。**遺物：**中近世～近代の陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。また、寛永通宝が溜井状部分の下層からまとめて出土した。数枚が付着した状態で、鉄錢が混ざるため全体が鎧に覆われていた。**時期：**埋没状態・出土遺物より、近世以降に比定される。

4号溝（遺構：第12図、図版8）

位置：3区南東側に位置する。**形態：**東西方向へ直行し、底面は西側が低い。断面形は箱状を呈する。**計測値：**主軸方位N-91°-E、長さ6.24m、幅0.40~0.54m、確認面からの深さ10~45cm。**埋没状態：**多量のAs-Bを含む暗褐色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

5号溝（遺構：第11図、図版9）

位置：3区中央よりやや東側に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**重複：**12号土坑と重複し、本溝が古い。**形態：**南北方向へほぼ直行し、底面は南側が低い。断面形は皿状ないし浅い逆台形状を呈する。**計測値：**主軸方位N-2°-W、残存長51.42m、幅0.50~0.89m、確認面からの深さ1~5cm。**埋没状態：**非常に多くのAs-Bを含む灰褐色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

6号溝（遺構：第11図、図版9）

位置：3区中央よりやや東側に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**重複：**16・17号土坑と重複し、本溝が古い。**形態：**南北方向へ蛇行して走行し、底面は南側が低い。断面形は皿状ないし浅い逆台形状を呈する。**計測値：**主軸方位N-4°-W、残存長51.72m、幅0.31~0.91m、確認面からの深さ1~6cm。**埋没状態：**非常に多くのAs-Bを含む灰褐色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。**備考：**水路に想定される。As-B層下水田跡1号大畦畔の東脇に掘り込まれ、主軸方位が近似することから、前時代のAs-B層下水田跡の地割を踏襲しているものと推測される。西脇に掘り込まれる5号溝も同様であろう。

7号溝（遺構：第11図、図版9）

位置：3区東側に位置し、北・南西側は調査区外にかかる。8号溝と並走する。**形態：**南北方向へ走行し、南側で南西へ緩やかに曲がる。底面は南側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値：**主軸方位はN-3°-Eへ走行後、N-39°-Eへ変わる。残存長25.69m、幅0.22~1.03m、確認面からの深さ5~8cm。**埋没状態：**多量のAs-Bを含む灰色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

8号溝（遺構：第11図、図版9）

位置：3区東側に位置し、北・南西側は調査区外にかかる。7号溝と並走する。**形態：**南北方向へ走行し、南側で南西へ緩やかに曲がる。底面は南側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値：**主軸方位はN-3°-Eへ走行後、N-39°-Eへ変わる。残存長27.60m、幅0.21~0.64m、確認面からの深さ4~7cm。**埋没状態：**多量のAs-Bを含む灰色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

9号溝（遺構：第12図、図版9）

位置：3区北東角に位置し、北・東側は調査区外にかかる。**形態：**北西-南東方向へ直行し、底面は南東側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値：**主軸方位N-44°-W、残存長3.46m、幅0.52~0.86m、確認面からの深さ5~11cm。**埋没状態：**多量のAs-Bを含む褐色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

10号溝（遺構：第12図、図版9）

位置：1区北西端に位置する。**形態：**東西方向へ直行し、底面は西側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値：**主軸方位N-90°-E、長さ6.50m、幅0.39~0.57m、確認面からの深さ4~11cm。**埋没状態：**多量のAs-B・白色粒と少量の小砾を含む褐色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、中近世以降に比定される。

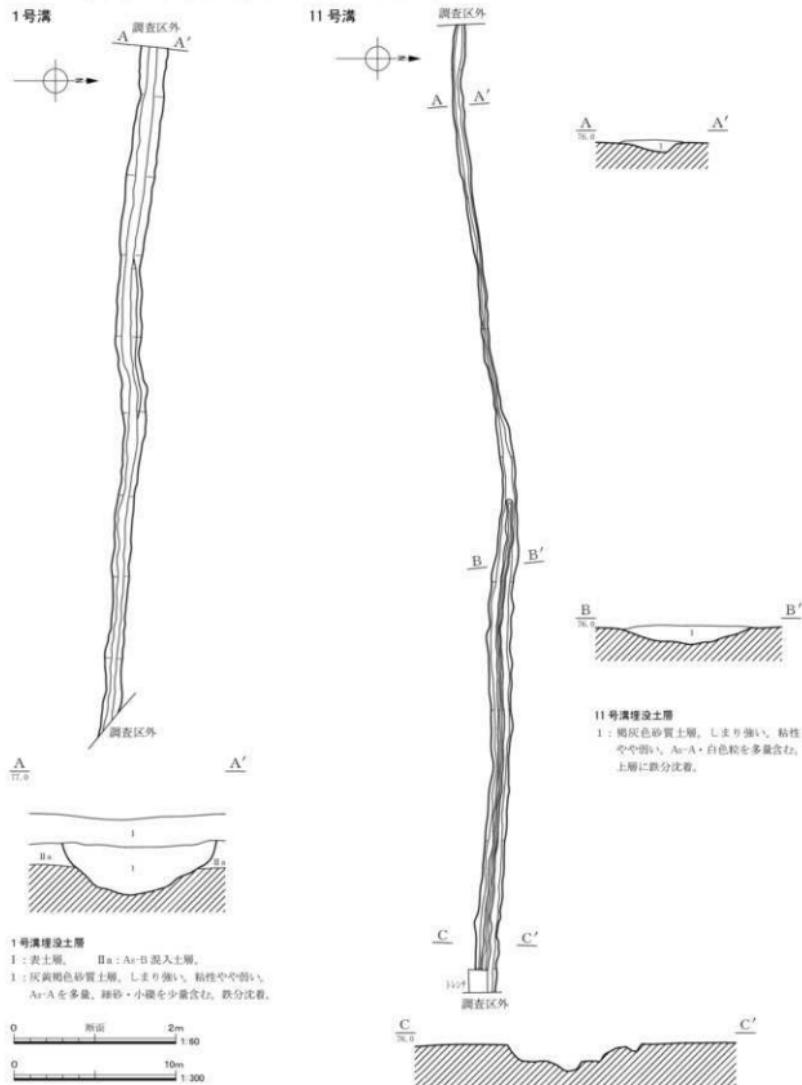
11号溝（遺構：第8図、図版9）

位置：1区南側に位置し、東・西側は調査区外にかかる。**形態：**東西方向へほぼ直行し、底面は東側が低い。断面形は皿状を呈する。**計測値：**主軸方位N-87°-E、残存長59.45m、幅0.32~1.56m、確認面からの深さ6~33cm。**埋没状態：**多量のAs-Aを含む褐色砂質土が堆積する。**遺物：**近世へ近現代の陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。**時期：**埋没状態・出土遺物より、近現代に比定される。

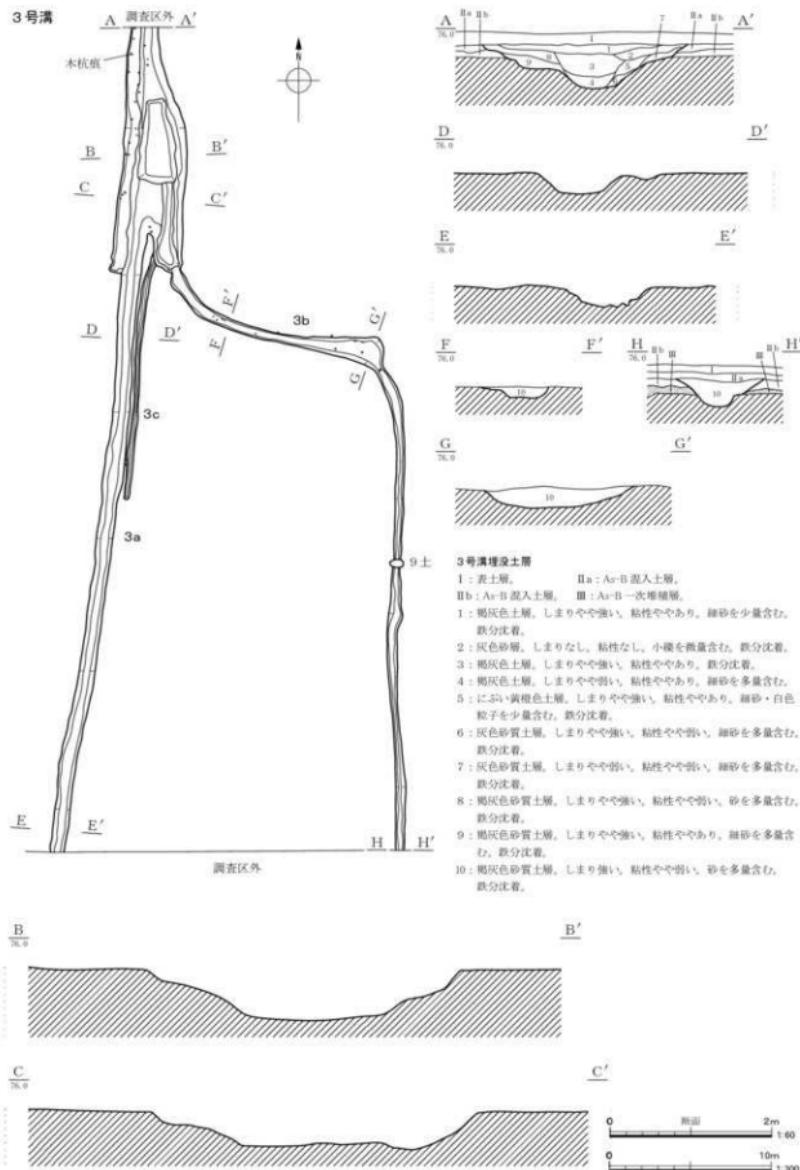
12号溝（遺構：第12図、図版9）

位置：1区南端に位置し、南側は調査区外にかかる。**形態：**南北方向へほぼ直行し、底面は南側が若干低い。断

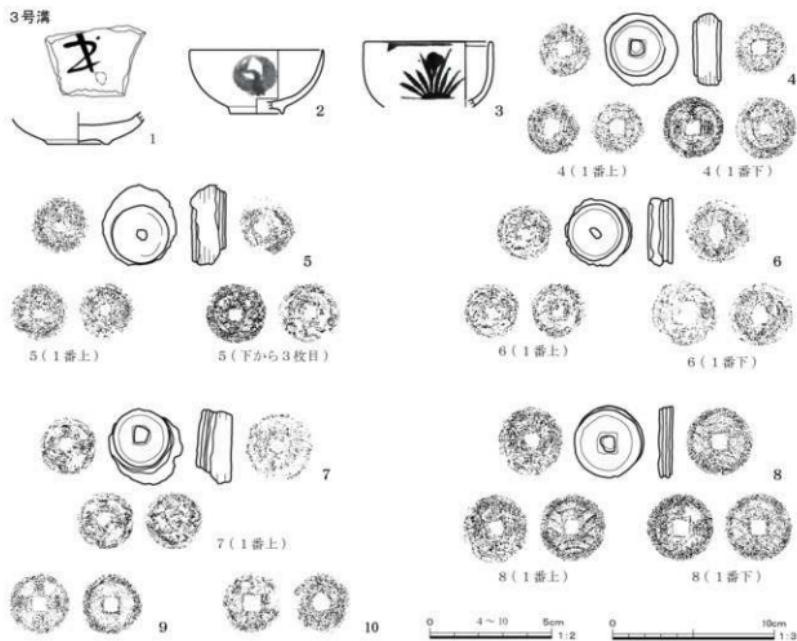
面形は逆台形状を呈する。計測値：主軸方位N-11°-E、残存長3.95m、幅0.28～0.33m、確認面からの深さ6cm。埋没状態：多量のAs-Bと少量の粘質土ブロックを含む灰色砂質土が堆積する。遺物：土師器片が1点出土した。時期：埋没状態より、中近世以降に比定される。



第8図 中近世以降の溝（1）



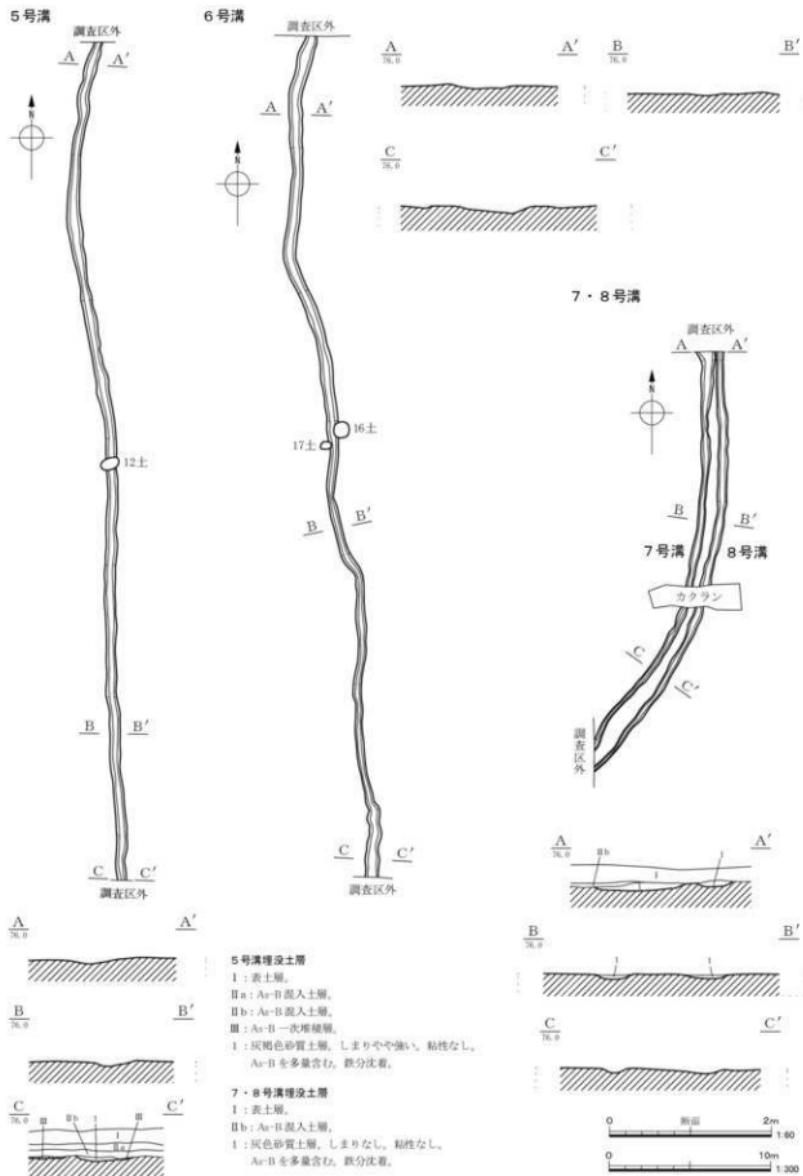
第9図 中近世以降の溝（2）



第10図 中近世以降の出土遺物

第1表 中近世以降の出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量(cm)	特徴	①粘土 ②色調	備考
1	3号溝	陶器皿	口径: 一 底径: (3.7) 器高: 約 2.0	ロクロ成形。外面無釉。内面施釉、見込み鉢形、トチノ痕あり。	①暗赤褐色粒 ②釉薬: にじみ黄褐 粘土: 灰黄褐	底部片。肥前、唐津。 17世紀。
2	3号溝	磁器碗	口径: (8.2) 底径: (3.2) 器高: 3.9	ロクロ成形。染付。外面鳥文。	①緻密 ②釉薬: 灰白 粘土: 白	1/4残存。肥前。18世紀前半。
3	3号溝	磁器碗	口径: (8.0) 底径: 一 器高: 約 4.0	ロクロ成形。染付。外面草花文。内面團線 1条。	①緻密 ②釉薬: 灰白 粘土: 白	口縁 ~ 体部 1/3残存。19世紀。
No.	遺構名	器種	法量(cm・g)	特徴	備考	
4	3号溝	寛永通宝	7枚重着、厚さ 1.15、重さ 18.43、銅錢、鉄錢混入。 1番上: 長さ 2.2、幅 2.2、孔 0.6、厚さ 0.1、重さ 1.68、新寛永。			苗井状部分出土。
5	3号溝	寛永通宝	8枚重着、厚さ 1.4、重さ 21.63、銅錢、鉄錢混入。 1番上: 長さ 2.4、幅 2.4、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 3.26。			苗井状部分出土。
6	3号溝	寛永通宝	5枚重着、厚さ 1.0、重さ 16.16、銅錢、鉄錢混入。 1番上: 長さ 2.3、幅 2.3、孔 0.5、厚さ 0.15、重さ 4.07、新寛永。			苗井状部分出土。
7	3号溝	寛永通宝	6枚重着、厚さ 1.4、重さ 18.17、銅錢、鉄錢混入。 1番上: 長さ 2.4、幅 2.4、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 3.65、新寛永。			苗井状部分出土。
8	3号溝	寛永通宝	4枚重着、厚さ 0.5、重さ 17.70、全て銅錢。 1番上: 長さ 2.3、幅 2.3、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 4.56、新寛永。背面十一字。			苗井状部分出土。
9	3号溝	寛永通宝	銅錢、長さ 2.5、幅 2.5、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 3.60、新寛永。			苗井状部分出土。
10	3号溝	寛永通宝	銅錢、長さ 2.5、幅 2.4、孔 0.7、厚さ 0.15、重さ 2.50。			一部欠失。3b号溝出土。



第11図 中近世以降の溝（3）

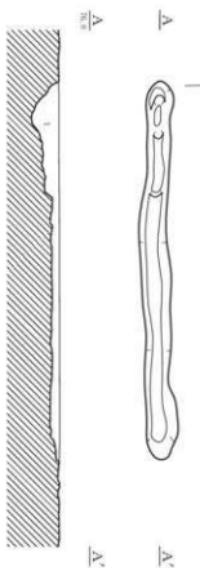
2号溝

A
77.0A'

2号溝埋没土層

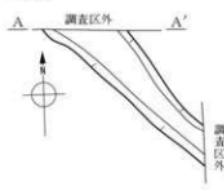
- I : 表土層。
- IIa : Ar-B 混入土層。
- IIb : Ar-B 混入土層。
- III : 淡黄色砂質土層。しまりなし。粘性なし。
Ar-B を非常に多く含む。

4号溝

AA'

- 4号溝埋没土層
I : 墓園色砂質土層。
しまり強い。粘性
やや弱い。Ar-B
を多量含む。

9号溝

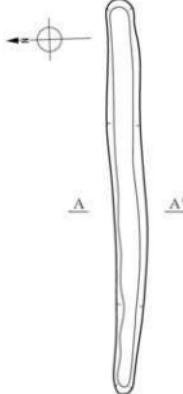
A
76.0A'

9号溝埋没土層

- I : 表土層。
- II : Ar-B 混入土層。
1 : 墓園灰色砂質土層。しまりなし。粘性なし。
Ar-B を多量含む。鉄分沈着。
- 2 : 墓園灰色砂質土層。しまりなし。粘性なし。
Ar-B を多量含む。1層より粒が粗い。
鉄分沈着。

0 2m 1:50

10号溝

AA'

12号溝埋没土層

- I : 表土層。
- IIb : Ar-B 混入土層。
- III : Ar-B 一次堆積層。
- IV : 灰色砂質土層。しまりやや
弱い。粘性なし。Ar-B を多
量、暗灰色砂質土プロック
を少量含む。



第12図 中近世以降の溝（4）

2 中近世以降の土坑（遺構：第13・14図、第2表、図版10）

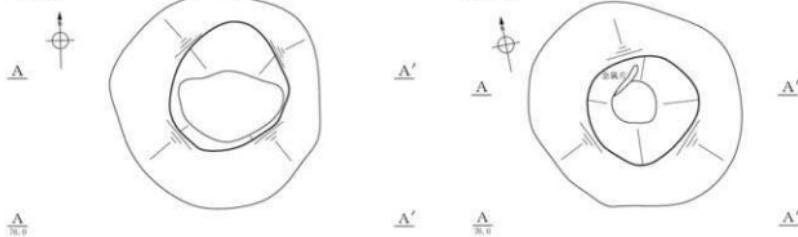
計18基が検出された。1・2号土坑は4区に位置し、形態・規模・埋没状態ともに酷似する。埋没土は粘質土ブロックを含む灰黄褐色砂質土で、底部には緑色の色素が沈着する。穴の周囲はドーナツ状に隆起し、2号土坑の下層からは金属片が出土している。周辺遺跡の事例から、焼夷弾が落下した痕跡と推定される¹⁾。3～18号土坑は3区に位置する。埋没土はAs-Bを含む褐灰色砂質土が主体である。断面形は浅い逆台形状を呈し、底面に凹凸があるものが多い。遺物は、13号土坑から近世の磁器・在地系土器の小片が出土したのみである。

註1) 南部燃点地区遺跡群No.4(前橋市教育委員会2010)で、1・2号土坑と同形態の土坑からバイブルの金属片が出土している。ゴムが焼けた様な異臭と漏水にオイル分が浮く状況から、第二次世界大戦の焼夷弾爆破片と判断されている。なお、南部燃点地区遺跡群No.1(前橋市埋蔵文化財発掘調査班2009)の中で、同じく1・2号土坑と同形態の土坑状遺構を平安時代末期の井戸跡(5区1号井戸)と報告した。しかし、今回の事例から同様に焼夷弾爆破片と判断される。記して訂正をいたしました。

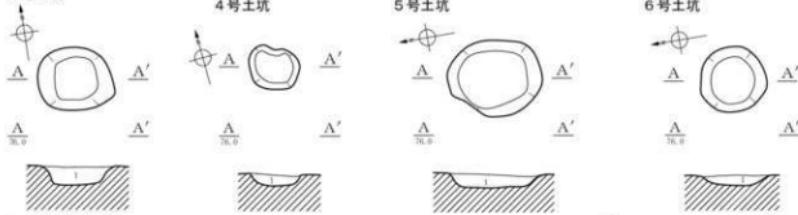
第2表 中近世以降の土坑計測表

				単位：cm				
遺構名	平面形	長径・短径・深さ	遺構名	平面形	長径・短径・深さ	遺構名	平面形	長径・短径・深さ
1号土坑	不整円形	160・142・135	7号土坑	円形	75・72・23	13号土坑	圓丸方形	97・93・36
2号土坑	円形	138・132・125	8号土坑	圓丸方形	125・120・22	14号土坑	椭円形	98・70・22
3号土坑	椭円形	93・78・25	9号土坑	椭円形	83・50・22	15号土坑	長椭円形	445・102・16
4号土坑	不整椭円形	62・50・13	10号土坑	椭円形	118・76・25	16号土坑	円形	99・97・32
5号土坑	椭円形	117・94・18	11号土坑	椭円形	101・76・68	17号土坑	椭円形	65・46・15
6号土坑	円形	82・80・12	12号土坑	椭円形	115・72・20	18号土坑	円形	84・78・36

1号土坑



3号土坑

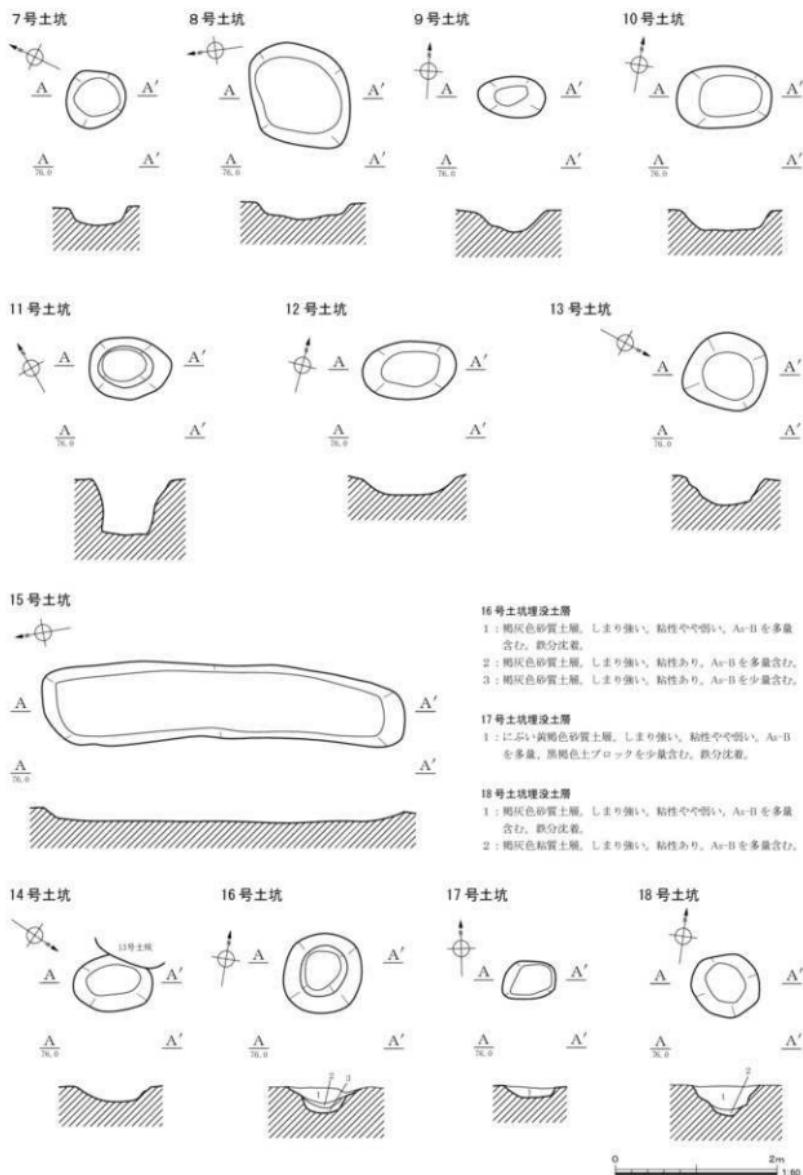


3～6号土坑埋没土層

1：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。Aa-Baを多量含む。鉄分沈着。



第13図 中近世以降の土坑（1）



第14図 中近世以降の土坑（2）

VI 平安時代末期（As-B 層下面）の遺構と遺物

1 As-B 層下水田跡

調査区全域に As-B 一次堆積層が良好に残存しており、これを取り除くと水田跡が検出された。水田面は概ね北西から南東へと緩やかに傾斜する。標高は 1 区で 76.10 m、2 区で 75.93 m、3 区で 75.65 m、4 区で 75.36 m を測る。水田面は北から南、さらに西から東へと低くなるが、1 区のみ逆で東から西へと低くなる。畦畔は比較的明瞭に確認できた。3 区では一町方格地割に伴う坪境に、幅広の南北畦畔が検出された（1 号大畦畔）。畦畔上には石が埋め込まれている箇所が見られ、大畦畔および小畦畔の交点付近に位置するものが多いことから、区画の境を示す標石の可能性が考えられる。水口は部分的にしか検出されなかった。

区画は南北・東西へ走行する畦畔により長方形を志向しているが、中には東西畦畔が蛇行し変形区画となるもの（区画 23・79 など）、平行四辺形（区画 16 など）や台形（区画 17 など）を呈すものも散見される。面積は、最小で 40.9 m²、最大で 582.1 m²を確認している。水田耕作土は Hr-FA の混入する黒色粘質土で、粘性は非常に強い。各区画内における水田面の比高は 0～8 cm を測る。平均は 1.8 cm で、湛水深は比較的の水平に保たれていたと推測される。水田面の状態は区画により違いが看取された。1・2・4 区では足跡列および塗み列が検出された。特に 1 区の 1 号足跡列は、調査区を北東端から南西端へと直線的に歩行し、さらに調査区外へと続いている。なお、後世の水田耕作に起因する As-B を二次的に包含する小規模な塗みも多数検出されている。

1 区水田跡（遺構：第 15～17 図、第 3・4 表、図版 1）

重複：10～12 号構と重複し、本水田跡が古い。**残存状態：**調査区北端（区画 1・7・13・19・25・26）および南東側（区画 17・18・23・24・30・31）は、後世の耕作により水田面が削平されていた。その他は良好で、5～7 cm ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形：**北から南へ、さらに東から西へ緩傾斜する。水田面の最高位は区画 7 で 76.10 m、最低位は区画 6 で 75.84 m である。**区画：**31 区画が確認され、全容が把握できたのは 11 区画である。面積は、最小が 40.9 m²、最大が 338.7 m²である。**畦畔：**小畦畔のみである。幅は南北畦畔が 29～97 cm、東西畦畔が 38～99 cm である。畦畔の高まりは、調査区西側が良く残っており、南北畦畔が 3～6 cm、東西畦畔が 5～7 cm を測る。調査区東側はやや低くなり、南北畦畔が 1～4 cm、東西畦畔が 1～5 cm である。また、水田面が低い方の畦畔脇に沿って、溝状の浅い塗みが検出される部分があり、歛立ての痕跡と見られる。**置き石：**畦畔の交点付近に埋められた石を 3 カ所で検出した。全て安山岩である。各石の法量は計測表に記してある。**水口：**6 カ所確認された。水口 1～5 は東西畦畔、水口 6 は南北畦畔に設置される。幅 10～69 cm。**水田面の状態：**凹凸が確認されるものの浅く、全体的にはだらかである。1 号足跡列が畦畔の上を踏み越えて北東～南西方向へ直線的に歩行する。また、1 号足跡列の南東約 15 m の位置に 1 号塗み列がほぼ並行して検出されている。**遺物：**出土しなかった。

2 区水田跡（遺構：第 18 図、第 4 表、図版 2）

重複：1 号構と重複し、本水田跡が古い。**残存状態：**全体的に良好であるが、1 号構の南側は搅乱で壊されていた。北側では 6～8 cm ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形：**概ね北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は区画 32 で 75.95 m、最低位は区画 38 で 75.80 m である。**区画：**7 区画が確認されたが、全容が把握できる区画はない。なお、区画 33 は 2 区画以上になる可能性がある。**畦畔：**小畦畔のみである。幅は南北畦畔が 58～99 cm、東西畦畔が 53～104 cm である。畦畔の上を As-B 一次堆積層が覆っていたため、畦畔の高まりは As-B 降下時に近い状態と推測される。南北畦畔が 3～6 cm、東西畦畔が 2～9 cm を測る。**水口：**2 カ所で確認された。水口 7 は幅 30 cm で南北畦畔の北端、水口 8 は幅 56 cm で東西畦畔の東端に設けられる。**水田面**

の状態：区画 32～34 は凹凸が深く、高低差は 3～5 cm を測る。特に区画 32 が顕著で、深い所では 6 cm の高低差が認められる。これに対して、区画 35～38 は凹凸が浅くなる。また、畦畔の上を東西方向へ歩行する足跡列が 4 列認められた（2～5 号足跡列）。**遺物：**出土しなかった。

3 区水田跡（遺構：第 19～22 図、第 4・5 表、図版 3・4）

重複：3～9 号溝、3～18 号土坑と重複し、本水田跡が古い。**残存状態：**調査区の中央より北側は、後世の耕作により水田面が削平されていた。南側の残存状態は良好で、5～7 cm ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形：**北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は区画 43 で 75.68 m、最低位は区画 75 で 75.32 m である。区画：37 区画が確認され、全容が把握できるのは 13 区画である。面積は、最小が 62.4 m²、最大が 582.1 m² である。**畦畔：**一町方格地割の坪境に 1 条の南北畦畔が検出され、1 号大畦畔と呼称した。方位は N-2°-W を指す。大畦畔の幅は 68～145 cm、高まりは 1～5 cm である。小畦畔の幅は南北畦畔が 39～132 cm、東西畦畔が 38～120 cm である。小畦畔の高まりは、南北畦畔は調査区南側（区画 45・46・49・50・53）で残りの良い箇所があり、高い所で 5～7 cm を測る。しかし、その他は 1～5 cm と低く、水田面の高さと大差ないものも見られる。東西畦畔は 1～5 cm と低めだが、区画 70・75 のみ 7～9 cm と高い。3 区の畦畔は、全体的に幅が広く崩れた印象を受ける。**置き石：**畦畔の上・脇に埋められた石を 5 カ所検出した。全て安山岩である。S 4・5 は南北畦畔、S 6・7 は 1 号大畦畔、S 8 は東西畦畔に位置する。S 5・7 は畦畔の交点付近に埋められている。各石の法量は計測表に記してある。**水口：**4 カ所で確認された。水口 9 が南北畦畔、水口 10～12 が東西畦畔に設けられる。幅 16～56 cm。**水田面の状態：**西側の区画 41・42・44～46・48～50 は凹凸が深く、高低差は 3～5 cm を測る。その東側の区画 52～54・56・57・59～62・66～68・69～75 では、凹凸が浅くなる。**遺物：**出土しなかった。

4 区水田跡（遺構：第 23・24 図、第 5 表、図版 4・5）

重複：1・2 号土坑と重複し、本水田跡が古い。**残存状態：**全体的に良好であるが、調査区西端の区画 76、北端の区画 77・80・82・84 は、後世の耕作により水田面が削平されていた。南側の残存状態は良好で、7～10 cm ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形：**概ね北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は区画 76 で 75.40 m、最低位は区画 89 で 75.10 m である。区画：14 区画が確認された。全容が把握できるのは 1 区画のみで、面積は 90.2 m² である。なお、区画 76 は 2 区画以上の区画があると推測される。**畦畔：**小畦畔のみである。幅は南北畦畔が 35～80 cm、東西畦畔が 40～80 cm である。畦畔の高まりは非常に良く残っている。特に調査区南側の南北畦畔は高く、6～10 cm である。ただし、区画 87 の西側のみ 1～2 cm と低い。東西畦畔は 3～8 cm である。**水口：**1 カ所で確認された。水口 13 で東西畦畔の中央付近に設けられる。幅 74 cm。**水田面の状態：**区画 77～80・84・86・88 は高低差 2～3 cm の凹凸が認められる。対して、区画 76・81・83・85・87・89 はならかで、凹凸はほとんど見られない。また、区画 79 の北西角や区画 81 の南側では、不整形な小窪みや土塊が多く見られた。足跡列が 9 列認められた（6～15 号足跡列）。南北畦畔の脇を歩行するもの、区画の中央を南北方向に歩行するもの、区画内を斜めに横切るものがある。**遺物：**出土しなかった。

2 As-B 層下足跡列

1号足跡列（遺構：第 15～17・25 図、図版 1）

位置：1 区中央に位置する。北・南側は調査区外にかかる。**残存状況：**明瞭な足跡は少なく、大半が幅広の窪みとして捉えられる。また、足跡の東脇には所々で円形ないし不整形の小窪みが確認される。牛馬の足跡の可能性

を考えたが、跡などの痕跡は確認できなかった。走行方位：N - 38° - E。畦畔の上を踏み越えて、北東→南西方向へ直線的に歩行する。計測値：残存長 58.95 m、列幅 80 ~ 162 cm。足跡の長さは 19 ~ 30 cm で、24 ~ 26 cm が多い。深さ 1 ~ 6 cm。小溝の長径は 7 ~ 21 cm で、10 ~ 14 cm が多い。深さ 3 ~ 5 cm。

2号足跡列（遺構：第 18・25 図、図版 2）

位置：2区中央北寄りに位置する。走行方位：N - 98° - E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を東→西方向へ歩行する。計測値：残存長 7.50 m。足跡の長さ 21 ~ 28 cm、深さ 2 ~ 5 cm。

3号足跡列（遺構：第 18・25 図）

位置：2区中央北寄りに位置する。東側は調査区外にかかる。走行方位：N - 98° - E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を西→東方向へ歩行する。計測値：残存長 7.66 m。足跡の長さ 20 ~ 23 cm、深さ 2 ~ 5 cm。

4号足跡列（遺構：第 18・25 図）

位置：2区中央北寄りに位置する。走行方位：N - 114° - E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を西→東方向へ歩行する。計測値：残存長 3.72 m。足跡の長さ 25 ~ 29 cm、深さ 1 ~ 4 cm。

5号足跡列（遺構：第 18・25 図）

位置：2区中央に位置する。西側は調査区外にかかる。走行方位：N - 96° - E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を西→東方向へ歩行する。計測値：残存長 15.50 m。足跡の長さ 20 ~ 25 cm、深さ 1 ~ 5 cm。

6号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区西側に位置する。南側は調査区外にかかる。走行方位：N - 39° - E。区画 76 を南西→北東方向へ歩行し、7号足跡列と合流する。計測値：残存長 13.02 m。足跡の長さは 18 ~ 25 cm で、22 ~ 24 cm が多い。深さ 2 ~ 6 cm。

7号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区西側に位置する。南側は調査区外にかかる。残存状況：北側は後世の耕作により残存していないかった。走行方位：N - 7° - E。区画 76 の南北畦畔沿いに南→北方向へ歩行する。計測値：残存長 23.31 m、列幅 50 ~ 110 cm。足跡の長さは 21 ~ 30 cm で、22 ~ 24 cm が多い。深さ 3 ~ 4 cm。

8号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。走行方位：N - 1° - W。区画 81 の中央を北→南方向へ歩行する。計測値：残存長 7.40 m。足跡の長さは 20 ~ 26 cm で、22 ~ 25 cm が多い。深さ 3 ~ 5 cm。

9号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。残存状況：北側は後世の耕作により残存していないかった。走行方位：N - 3° - E。区画 81 の南北畦畔沿いに北→南方向へ歩行する。計測値：残存長 14.21 m。足跡の長さは 20 ~ 30 cm で、22 ~ 23 cm が多い。深さ 4 ~ 6 cm。

10号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。残存状況：北側は後世の耕作により残存していないかった。走行方位：N - 3° - E。区画 83 の南北畦畔沿いに南→北方向へ歩行する。計測値：残存長 14.30 m。足跡の長さは 17 ~ 24 cm で、21 ~ 23 cm が多い。深さ 3 ~ 7 cm。

11号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。残存状況：北側は後世の耕作により残存していないかった。走行方位：N - 37° - E。畦畔の上を踏み越えて、区画 81・83 を北西→南東方向へ歩行する。計測値：残存長 18.20 m。足跡の長さは 21 ~ 30 cm で、21 ~ 24 cm が多い。深さ 6 ~ 7 cm。

12号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：4区東側に位置する。走行方位：N - 67° - E。畦畔の上を踏み越えて、区画 85・87 を南西→北東方向へ歩行する。計測値：残存長 9.40 m。足跡の長さは 18 ~ 28 cm で、22 ~ 24 cm が多い。深さ 3 ~ 5 cm。

13号足跡列（遺構：第23・26図）

位置：4区東側に位置する。南側は調査区外にかかる。走行方位：N-55°-E。畔の上を踏み越えて、区画83・85・87・89を北東→南西方向へ歩行する。計測値：残存長18.90m。足跡の長さは16～25cmで、19～22cmが多い。深さ2～5cm。

14号足跡列（遺構：第23・26図、図版5）

位置：4区東側に位置する。南側は調査区外にかかる。走行方位：N-32°-W。区画89を南東→北西方向へ歩行する。計測値：残存長13.70m。足跡の長さは18～25cmで、20～23cmが多い。深さ3～6cm。

15号足跡列（遺構：第23・26図）

位置：4区東端に位置する。北・東側は調査区外にかかる。走行方位：区画89を南東→北西方向（N-55°-W）へ歩行した後、北上する（N-15°-E）。計測値：残存長13.50m。足跡の長さは18～30cmで、22～28cmが多い。深さ3～6cm。

3 As-B層下窪み列

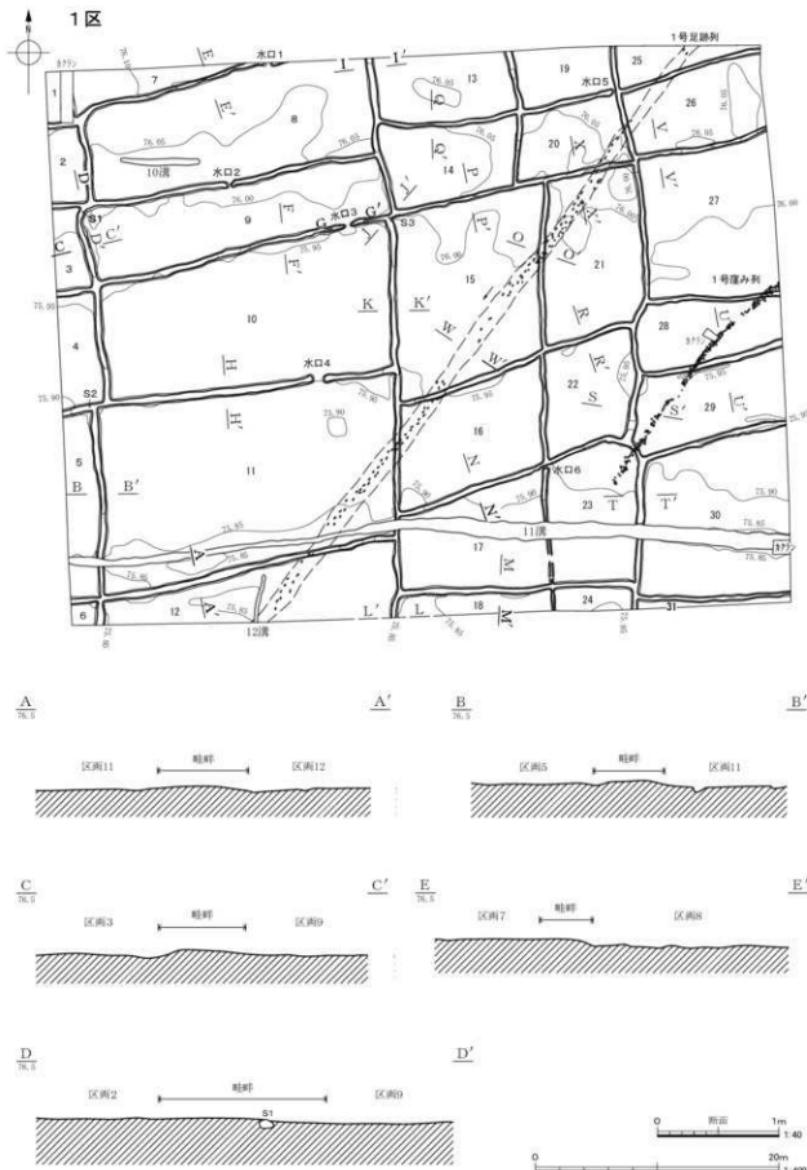
1号窪み列（遺構：第15～17・25図）

位置：1区東側、1号足跡列の南東約15mの位置にはほぼ並行して検出される。東側は調査区外にかかる。走行方位：概ねN-40°-Eを指す。畔の上を譲りて、北東→南西方向へ走行する。形態：平面形は円形ないし不整形を呈する。計測値：残存長21.60m、列幅25～70cm。小窪みは、長径5～25cm、短径4～12cm、深さ2～3cmのものが多い。

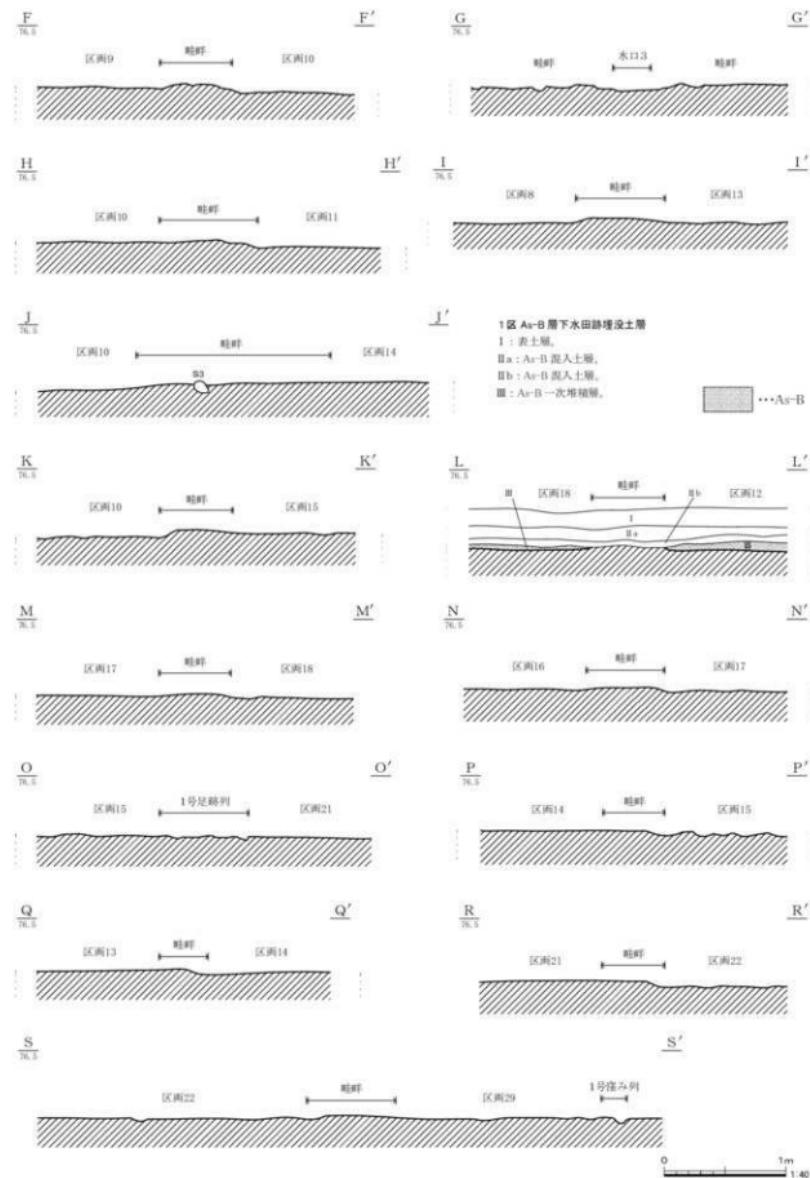
第3表 As-B層下水田跡区画計測表（1）

面積は畔下端線の範囲、面積比高は同一区画内の最大値、畔高は田面と畔の比高を示す。

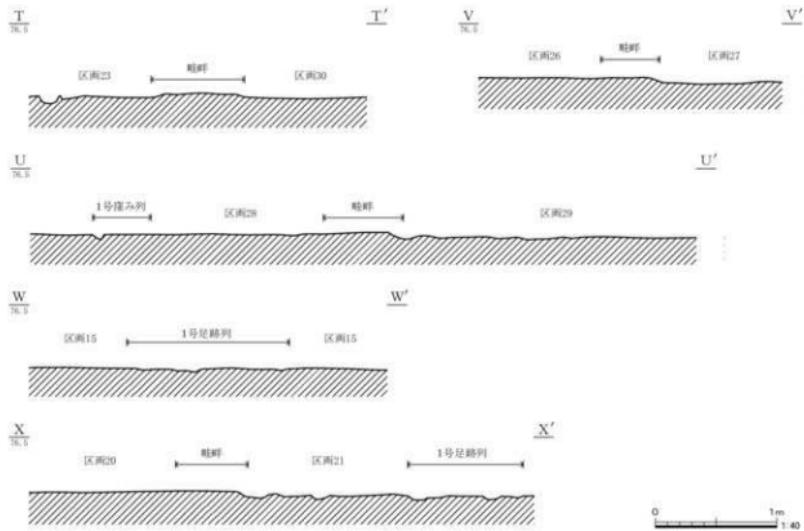
調査区	面積 m ²	面積 m ²	南北幅 m	東西幅 m	田面中央 標高 m	田面比高 cm	南北畔高 cm	南北畔幅 cm	東西畔高 cm	東西畔幅 cm	備考
1区	1	—	—	—	76.08	0	—	—	—	—	
	2	—	5.97	—	76.03	2	—	—	3～4	58～61	
	3	—	6.56	—	75.99	1	—	—	1～2	48～68	
	4	—	9.12	—	75.93	3	—	—	1～2	53～72	
	5	—	14.72	—	75.89	2	—	—	2～3	53～78	
	6	—	—	—	75.86	0	—	—	1	51～70	
	7	—	—	—	76.12	1	—	—	—	—	
	8	—	8.51	23.30	76.06	2	2～4	58～73	2～7	40～60	水口1（幅32cm）
	9	124.5	5.39	24.70	76.00	1	3～5	53～84	3～5	47～72	水口2（幅13cm）、畔交点にS1（長さ15cm、幅11cm）
	10	246.2	11.20	23.70	75.92	2	4～5	64～79	4～7	48～84	水口3（幅30cm）
	11	338.7	13.62	23.90	75.86	4	4～5	57～97	3～6	54～90	水口4（幅69cm）、畔交点にS2（長さ17cm、幅15cm）
	12	—	—	24.21	75.85	0	1～2	62～83	2～5	51～99	
	13	—	—	11.05	76.04	1	2～4	60～82	—	—	
	14	61.2	5.81	10.52	76.04	1	2～3	47～67	2～3	39～53	
	15	162.2	14.11	11.80	75.97	2	3～5	58～78	2～3	40～63	畔交点にS3（長さ19cm、幅13cm）
	16	94.8	7.70	12.15	75.92	0	4～6	47～65	3～4	47～68	
	17	89.0	12.05	8.12	75.88	2	4	42～72	3～5	41～70	
	18	—	—	12.70	75.85	0	4	58～67	3～4	46～82	
	19	—	—	7.75	76.08	1	1～2	43～72	—	—	
	20	40.9	5.30	8.62	76.04	0	2	43～55	1～3	39～61	水口5（幅10cm）



第15図 1区 As-B層下水田跡(1)



第16図 1区 As-B 層下水田跡 (2)



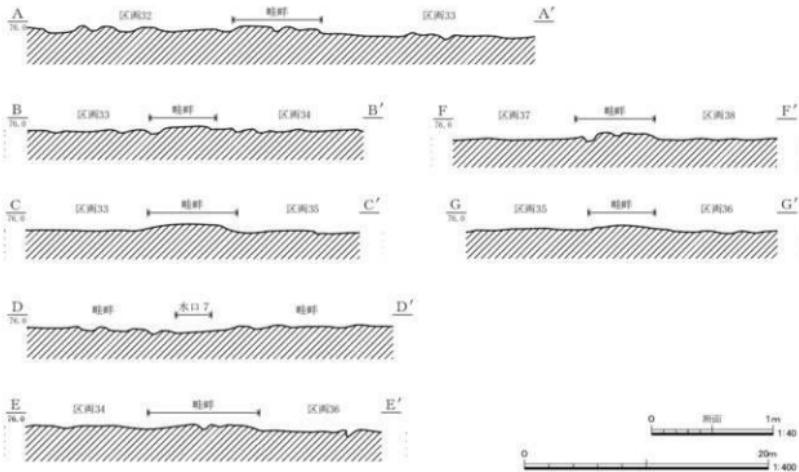
第17図 1区 As-B層下水田跡(3)

第4表 As-B層下水田跡区画計測表(2)

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

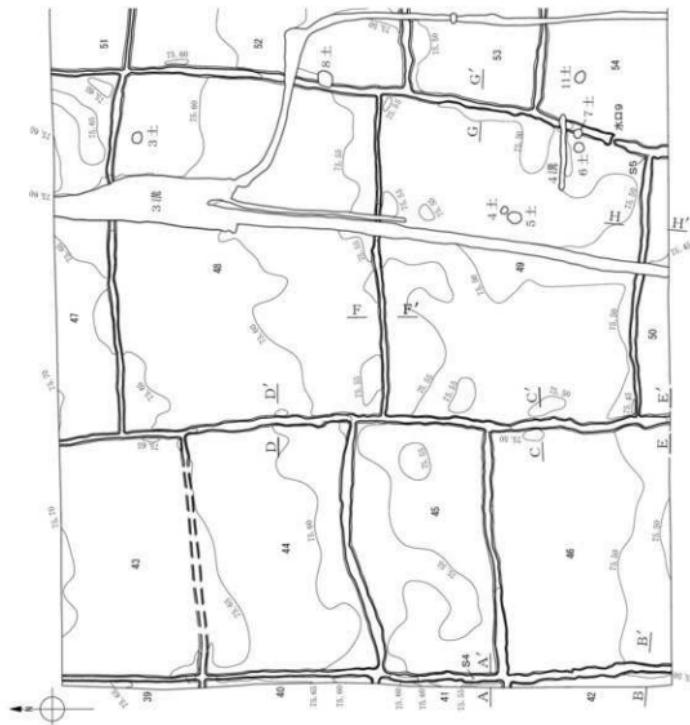
調査区	区画 No.	面積 (m ²)	南北幅 (m)	東西幅 (m)	田面中央 標高(m)	田面比高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔幅 (cm)	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔幅 (cm)	備考
1区	21	97.2	12.58	8.10	75.99	1	1~2	46~70	2~4	46~65	
	22	56.8	7.90	7.23	75.94	1	1~2	35~69	3~4	51~63	
	23	74.7	11.01	7.20	75.89	3	0~1	39~52	3~4	43~68	
	24	—	—	6.20	75.86	0	0~1	29~38	1~2	52~80	
	25	—	—	—	76.06	0	1~2	50~61	—	—	
	26	—	6.35	—	76.06	2	1~2	49~63	0~1	39~59	
	27	—	12.35	—	76.01	2	2~3	55~65	1~5	41~60	
	28	—	5.29	—	75.95	0	2~3	51~63	0~3	38~65	
	29	—	5.38	—	75.93	1	2~3	58~97	2~5	50~80	
	30	—	13.018	—	75.88	2	2~4	55~78	3~4	46~86	
	31	—	—	—	75.86	0	2~3	55~59	1~2	42~60	
2区	32	—	—	—	75.93	3	—	—	—	—	
	33	—	—	—	75.85	2	—	—	8~9	69~83	2~5号足跡列、2区 面以上との可能性
	34	—	—	—	75.88	2	—	—	2~5	54~104	
	35	—	—	—	75.86	1	5~6	65~86	—	—	2~5号足跡列
	36	—	—	14.15	75.82	2	5~6	58~95	3~5	53~86	水口7(幅30cm)、水 口8(幅56cm)
	37	—	—	7.15	75.85	2	3~5	67~99	—	—	
	38	—	—	—	75.82	2	3~6	61~71	—	—	
3区	39	—	—	—	75.65	2	—	—	—	—	
	40	—	13.60	—	75.64	1	—	—	1	63	
	41	—	10.00	—	75.55	1	—	—	2	70	
	42	—	—	—	75.51	1	—	—	4	81	

2区

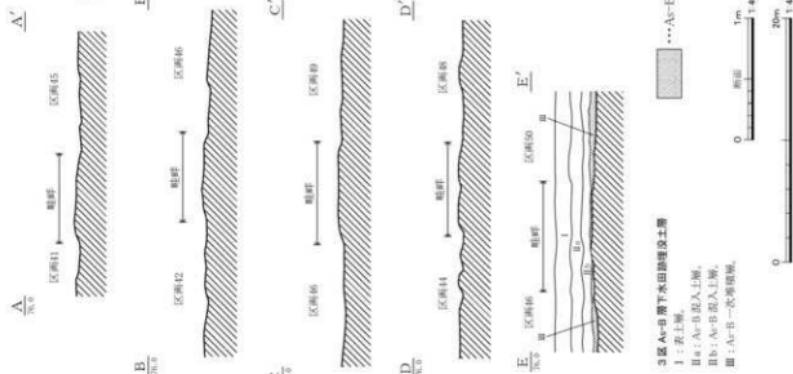


第18図 2区 As-B 墓下水田跡

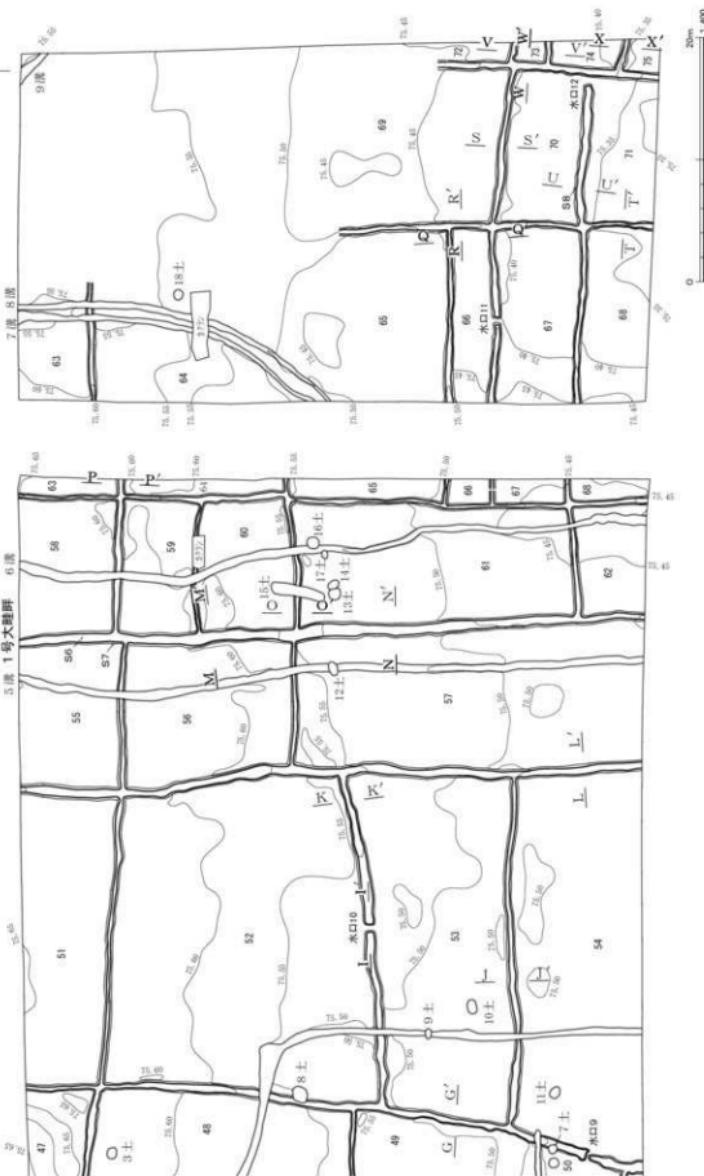
3区西側



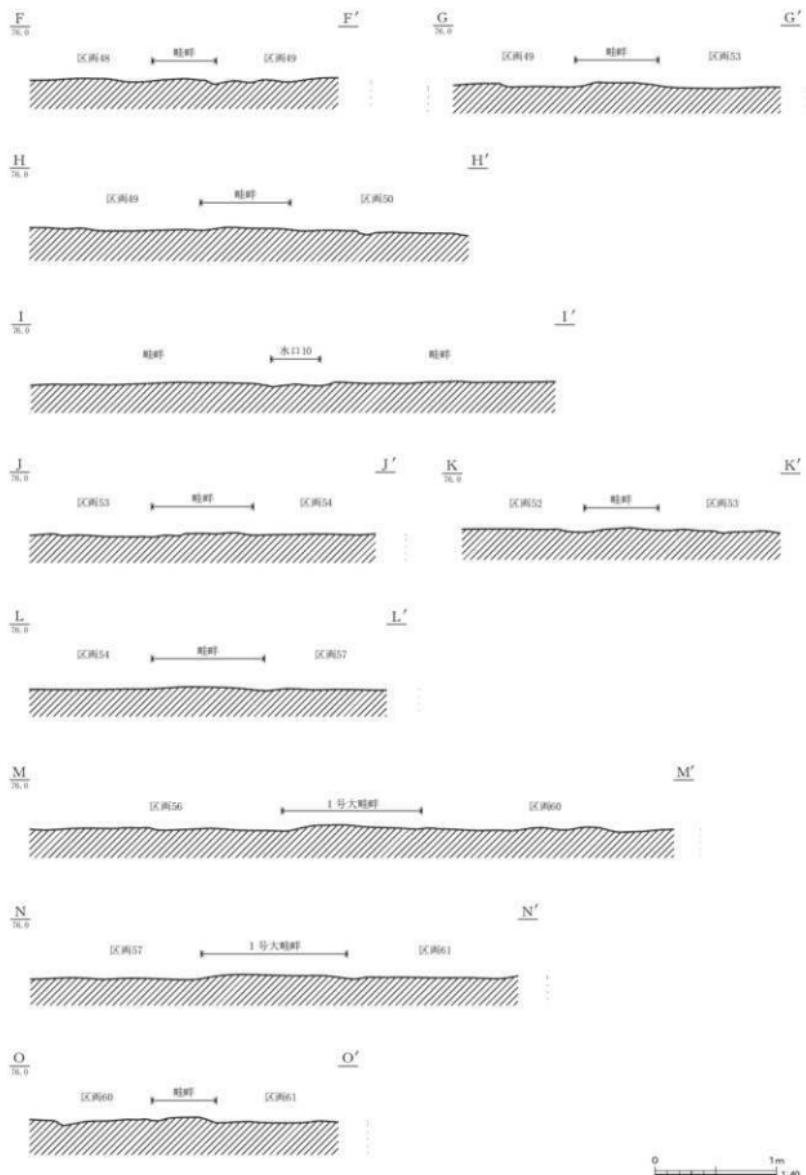
第19図 3区As-B層下水田跡(1)



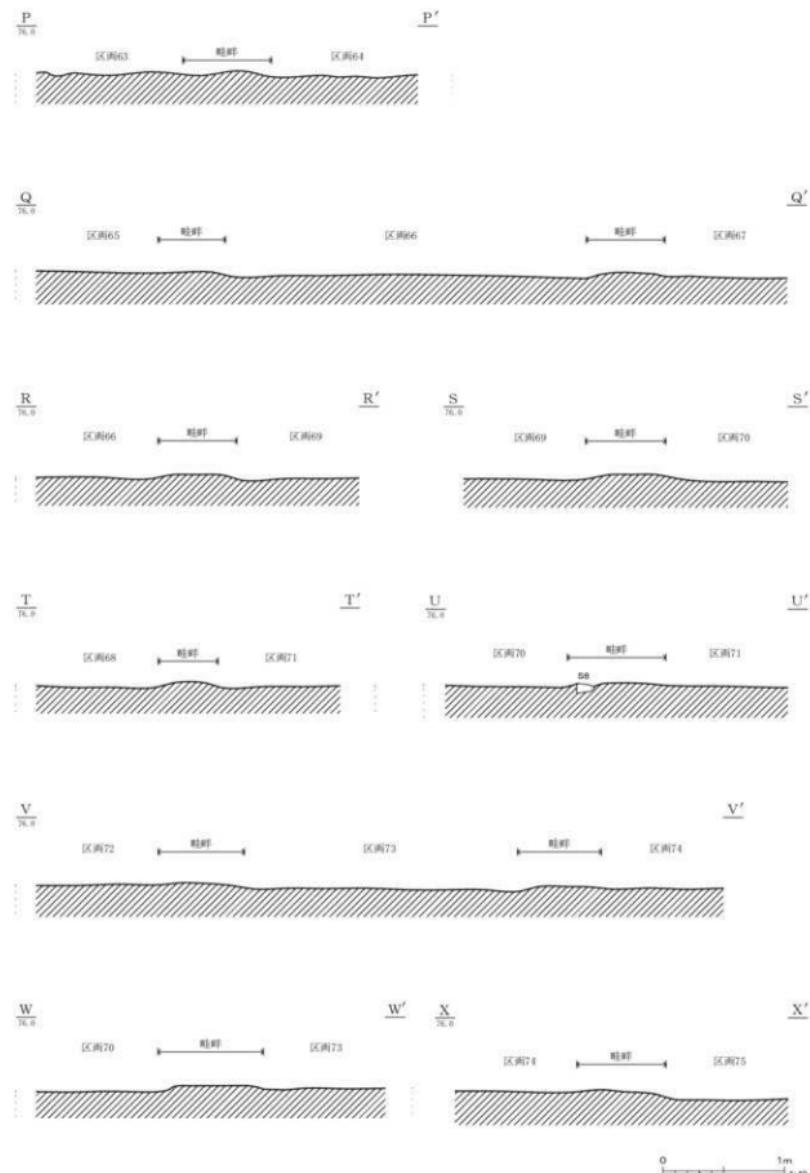
3区東側



第20図 3区 A5-B層下水田跡（2）

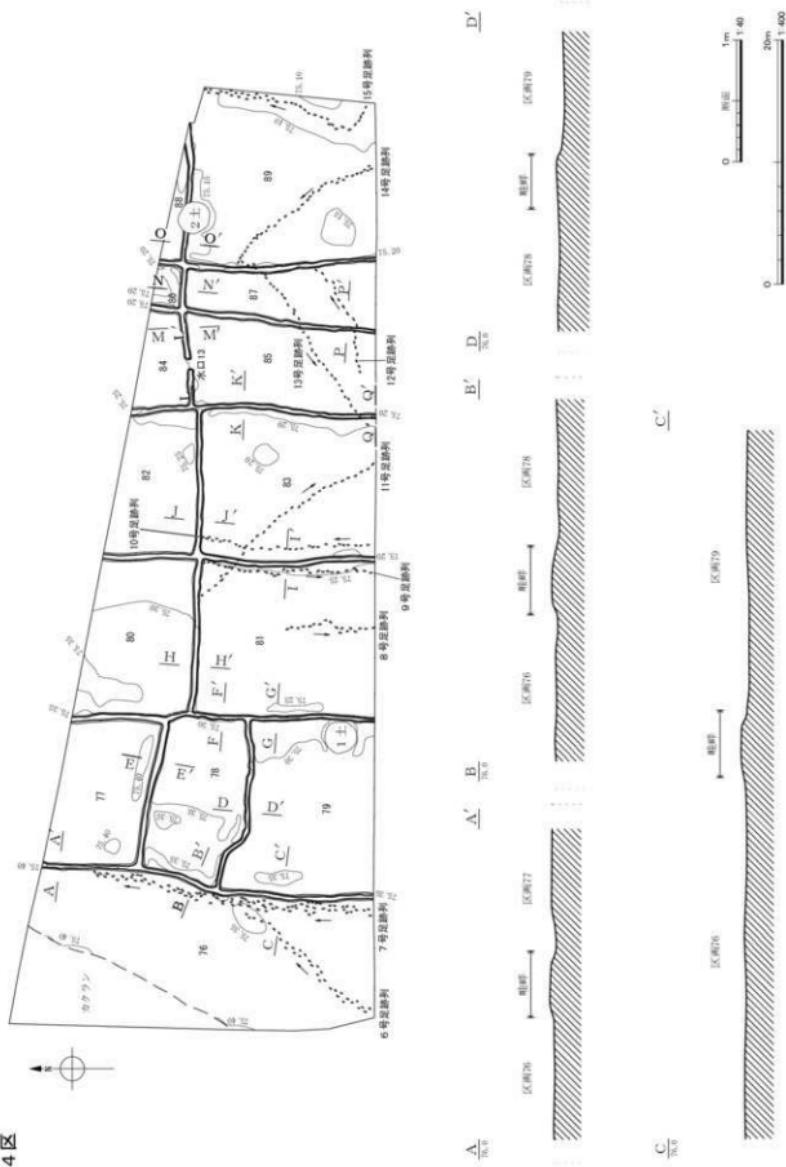


第21図 3区 As-B 層下水田跡 (3)

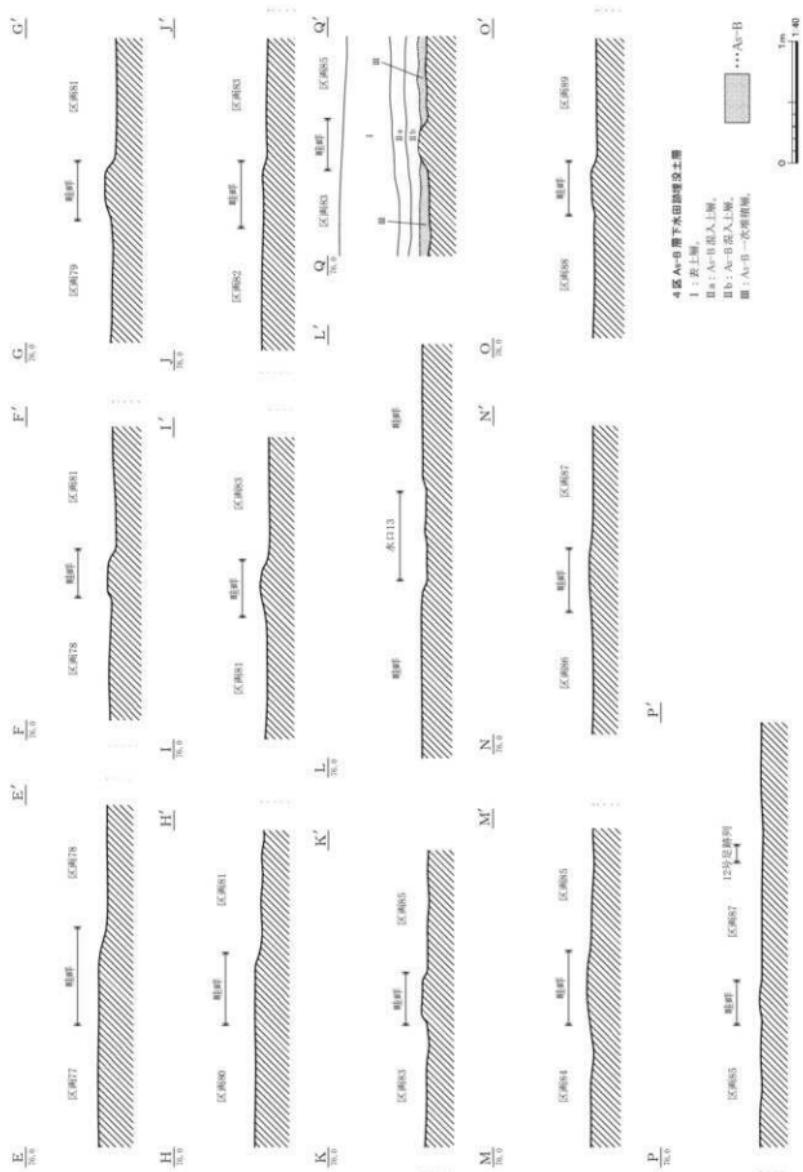


第22図 3区 As-B層下水田跡 (4)

4区



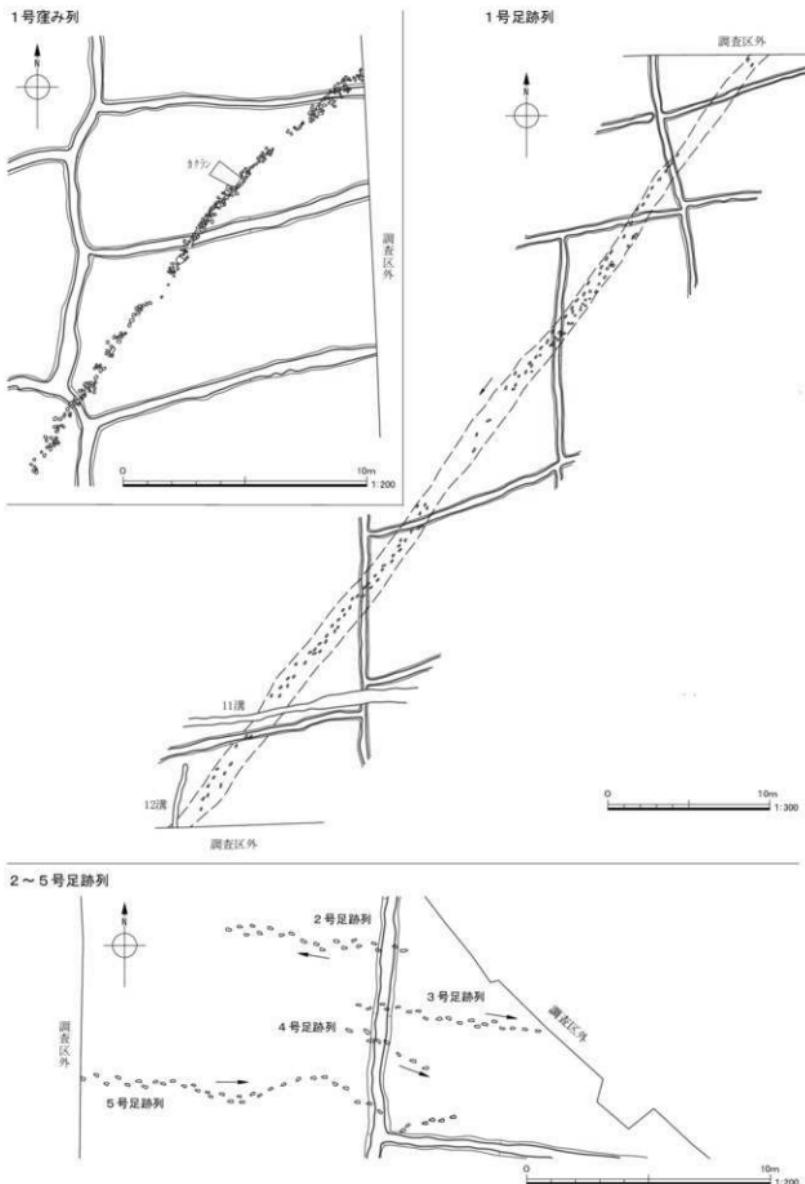
第23図 4区 As-B層下水田跡（1）



第5表 As-B層下水田跡区画計測表(3)

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画No	面積(m ²)	南北幅(m)	東西幅(m)	田面中央標高(m)	田面比高(cm)	南北畦畔高(cm)	南北畦畔幅(cm)	東西畦畔高(cm)	東西畦畔幅(cm)	備考
3区	43	—	—	19.36	75.65	2	2~3	48~60	—	—	
	44	249.5	(11.92)	20.00	75.62	5	0~2	55~76	0~1	45~70	
	45	206.6	10.89	20.45	75.54	3	3~6	64~88	1~2	70~117	南北畦畔にS4(長さ14cm, 幅7cm)
	46	—	—	19.17	75.52	2	1~7	65~116	2~4	66~120	
	47	—	—	29.50	75.65	1	0~2	51~65	—	—	
	48	582.1	21.20	28.00	75.60	8	0~5	59~100	1~3	50~92	
	49	511.9	21.30	25.45	75.50	5	2~6	40~100	1~2	42~80	
	50	—	—	21.03	75.45	1	4~6	88~119	2~3	38~88	
	51	—	—	23.70	75.63	1	0~2	51~61	—	—	
	52	507.6	20.58	24.80	75.58	8	2~4	52~102	1~2	50~80	
	53	300.9	10.66	27.45	75.50	2	5~6	59~87	2~4	60~120	水口10(幅42cm)
	54	—	—	32.00	75.48	2	1~2	70~115	2~4	52~100	水口9(幅16cm)、南北畦畔にS5(長さ19cm, 幅13cm)
	55	—	—	11.65	75.63	1	1~2	80~119	—	—	
	56	145.1	13.60	10.68	75.61	3	3~4	72~132	1~3	49~80	
	57	—	—	11.25	75.52	6	2~3	71~120	1~2	42~62	2区画以上の可能性
	58	—	—	10.72	75.62	2	0~1	76~110	—	—	1号大畦畔、大畦畔にS6(長さ12cm, 幅5cm)、S7(長さ16cm, 幅13cm)
	59	62.4	5.62	10.71	75.60	0	0~1	99~132	1~2	60~97	1号大畦畔
	60	77.2	7.89	10.22	75.58	2	3~4	91~125	3~4	42~50	1号大畦畔
	61	205.1	22.21	9.79	75.52	5	1~2	91~145	4~5	50~75	1号大畦畔
	62	—	—	8.82	75.45	1	2~5	68~80	0~1	51~80	1号大畦畔
	63	—	—	75.60	2	0~1	45~59	—	—		
	64	—	—	12.91	75.55	2	3~4	50~90	1~5	41~71	
	65	—	—	12.71	21.78	75.53	5	2~3	39~79	—	51~65
	66	63.7	3.14	22.32	75.45	0	1~2	58~60	2~4	45~86	
	67	138.8	6.22	22.58	75.40	1	1~2	57~59	0~4	50~85	水口11(幅31cm)
	68	—	—	22.31	75.36	3	1~3	59~72	3~4	51~80	
	69	—	—	12.40	75.44	2	2~4	62~90	—	—	
	70	71.4	5.95	12.19	75.38	3	3~5	52~79	3~7	51~90	
	71	—	—	11.66	75.34	2	3~5	42~72	3~5	70~100	水口12(幅56cm)、東西畦畔にS8(長さ18cm, 幅15cm)
	72	—	—	—	75.42	0	0~1	70~89	—	—	
	73	—	—	2.25	75.40	0	2~3	82~90	3~5	70~71	
	74	—	—	5.60	75.40	1	3~4	69~90	3~4	60~70	
	75	—	—	—	75.34	0	1~2	70~79	6~9	62~82	
4区	76	—	—	—	75.36	1	—	—	—	—	6・7号足跡列
	77	—	—	11.75	75.38	0	2~6	43~59	—	—	
	78	96.2	7.64	12.86	75.33	0	5~6	42~66	6~8	50~80	
	79	—	—	14.47	75.32	1	5~7	49~70	5~7	40~60	
	80	—	—	12.40	75.32	2	3~6	59~76	—	—	
	81	—	—	12.29	75.27	2	7~10	40~57	4~6	50~71	8・9・11号足跡列
	82	—	—	11.19	75.28	1	1~2	60~70	—	—	
	83	—	—	11.99	75.21	2	6~8	43~60	4~6	42~55	10・11・13号足跡列
	84	—	—	7.79	75.20	1	3~4	48~80	—	—	
	85	—	—	6.48	75.18	0	5~9	41~54	3~4	50~61	水口13(幅74cm)、12・13号足跡列
	86	—	—	3.20	75.20	1	2~3	61~70	—	—	
	87	—	—	4.11	75.16	2	2~3	38~71	3~4	51~61	12・13号足跡列
	88	—	—	—	75.16	1	4~5	48~52	—	—	
	89	—	—	—	75.13	5	5~7	35~76	3~5	40~71	13・14・15号足跡列

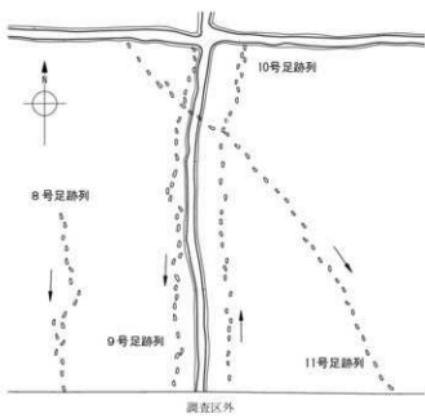


第25図 As-B層下足跡列(1)・座み列

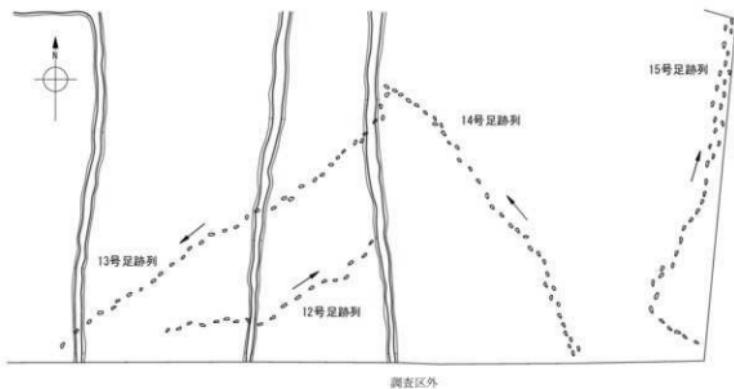
6 ~ 7号足跡列



8 ~ 11号足跡列



12 ~ 15号足跡列



0 10m 1:200

第 26 図 As-B 層下足跡列 (2)

VII 古墳時代から平安時代の遺構と遺物

1 Hr-FA 層下水田跡

2・4 区で Hr-FA（6世紀初頭降下）の堆積が確認された。2区は Hr-FA 層が比較的良好に残存しており、厚さ 2~7 cm の黄橙色火山灰に覆われた水田区画が検出された。Hr-FA が検出されたのは 13 号溝の東側、幅 11.48 ~ 14.00 m の範囲だが、13 号溝西側の 14 号溝との間に Hr-FA を包含する小窪みが散見され、本来はこの範囲にも水田耕作が及んでいたと推測される。水田耕作土は As-C 混入の黒褐色粘質土で、粘性は非常に強い。4 区は調査区東端で、幅 4.48 ~ 5.40 m の範囲に Hr-FA を包含する小窪み群が検出され、水田の痕跡と想定した。

2 区 Hr-FA 層下水田跡（遺構：第 27 図、第 7 表、図版 6／遺物：第 27 図、第 6 表、図版 10）

位置：2 区中央に位置し、南側は擾乱に壊される。北側は調査区外にかかる。**重複：**1・13 号溝と重複し、本水田跡が古い。**地形：**概ね北西から南東へ緩傾斜する。水田面の最高位は区画 1 で 75.66 m、最低位は区画 18 で 75.51 m である。**区画：**19 区画が確認されたが、全容が把握できるのは 3 区画のみである。面積は最小で 14.2 m²、最大で 67.0 m² である。平面形は方形ないし長方形を呈する。**畦畔：**南北畦畔の走行方位は区画 12 ~ 14 を境に異なり、北側は東傾し（N - 1 ~ 15° - E）、南側は西傾する（N - 2 ~ 9° - W）。東西畦畔は N - 75 ~ 102° - E を指す。幅は 27 ~ 62 cm である。畦畔の高まりは 0 ~ 5 cm で、区画 15 ~ 18 で良好に残っている。**水口：**確認できなかった。**水田面の状態：**Hr-FA を包含する梢円形の小窪みが無数に認められる。**遺物：**区画 18 の東西畦畔の南脇水田面から、同一個体の土師器片が 2 点出土した（1）。**時期：**埋没状態・出土遺物より、古墳時代後期に比定される。

4 区 Hr-FA 層下水田跡（遺構：第 28 図、図版 7・8）

位置：4 区東端に位置し、北・南・東側は調査区外にかかる。**重複：**15 号溝と重複し、本水田跡が古い。**地形：**概ね北西から南東へ緩傾斜する。最高位は 74.93 m、最低位は 74.84 m である。**区画・畦畔：**認められなかった。**水田面の状態：**水田面は残存しない。Hr-FA を包含する梢円形の小窪みが群在する。北東角にわずかな段差が認められる。**遺物：**出土しなかった。**時期：**埋没状態より、古墳時代後期に比定される。

2 古墳時代から平安時代の溝

13 号溝（遺構：第 29 図、図版 7）

位置：2 区西側に位置する。北側は調査区外にかかり、南側は擾乱に壊される。**重複：**2 区 Hr-FA 層下水田跡と重複し、本溝が新しい。**形態：**南北方向へやや蛇行して走行し、底面は南側が低い。断面形は皿状ないし逆台形状を呈し、上方は外側へ開く。**計測値：**主軸方位 N - 1° - E、残存長 29.62 m、幅 0.66 ~ 1.13 m、確認面からの深さ 18 ~ 22 cm。**埋没状態：**主に褐色砂質土が堆積する。**遺物：**土師器片が 3 点出土した。**時期：**Hr-FA 層（V 層）を掘り込み、Hr-FA 混入土層（IVc 层）に覆われることから、古墳時代後期～平安時代に比定される。

14 号溝（遺構：第 29 図、図版 7）

位置：2 区西端に位置し、北東・南西側は調査区外にかかる。**形態：**北東～南西方向へほぼ直行し、底面は南西側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値：**主軸方位 N - 33° - E、残存長 11.70 m、幅 0.29 ~ 0.53 m、確認面からの深さ 5 ~ 6 cm。**埋没状態：**灰黃褐色砂質土が堆積する。**遺物：**出土しなかった。**時期：**上面が Hr-FA 主体の層（V' 層）で覆われることから、古墳時代後期以前に比定される。

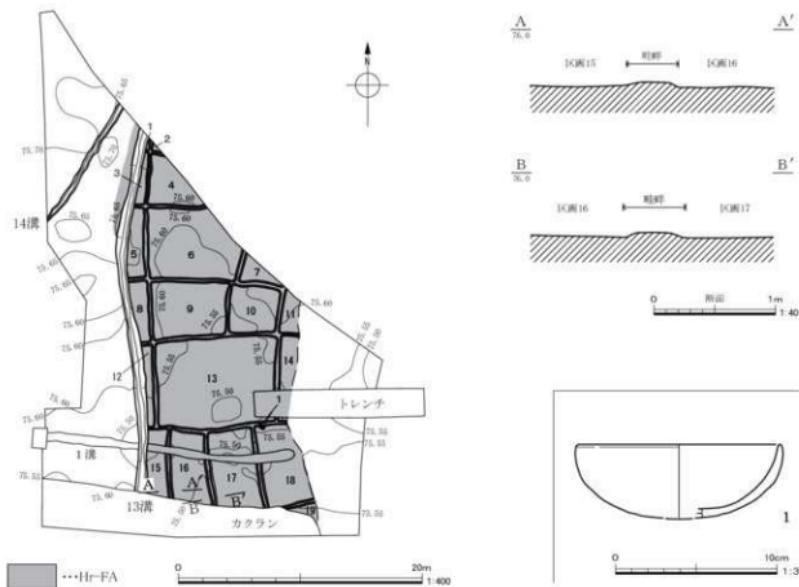
15号溝（遺構：第30図、図版8）

位置：4区南端に位置する。東・南側は調査区外にかかる。重複：4区Hr-FA層下水田跡と重複し、本溝が新しい。

形態：東西方向へ走行し、断面形は不明である。計測値：主軸方位N-88°-E、残存長6.70m、残存幅0.50~0.71m、確認面からの深さ5~6cm。埋没状態：褐色砂質土が堆積する。遺物：出土しなかった。時期：Hr-FA混入の黒色粘質土層の上から掘り込み、Hr-FA混入土層（IVc層）に覆われることから、古墳時代後期～平安時代に比定される。

16号溝（遺構：第31図、図版8）

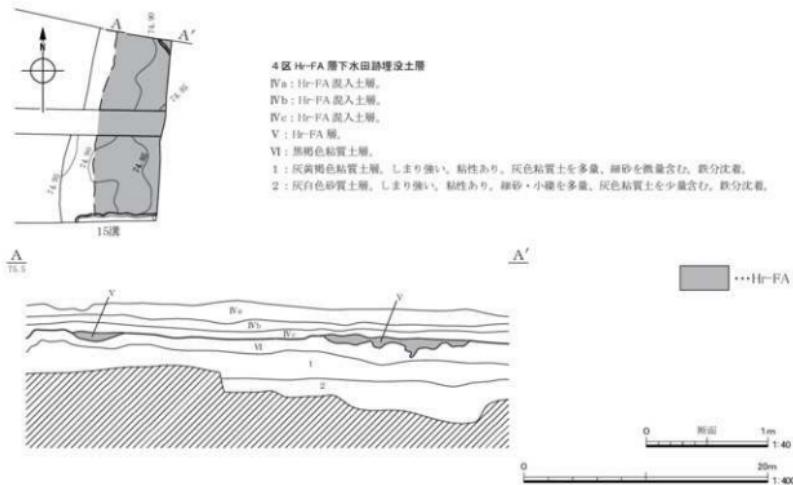
位置：3区東端に位置し、北・南東側は調査区外にかかる。形態：南北方向へ走行し、南側で南東に方向を変える。底面は南東側が若干低い。断面形はU字状を呈し、上方は外側へ広がる。計測値：主軸方位N-7°-WおよびN-33°-W、残存長30.22m、幅0.70~1.26m、確認面からの深さ26~36cm。埋没状態：上～中層に細砂を含む黒褐色粘質土、下層に砂を非常に多く含む黒褐色砂質土が堆積する。遺物：出土しなかった。時期：As-C混入土層（VII層）に覆われることから、古墳時代前期ないしそれ以前に遡る可能性がある。



第27図 2区Hr-FA層下水田跡・出土遺物

第6表 古墳時代の出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量(cm)	特徴	①胎土	②色調	備考
1	2区 Hr-FA層 下水田跡	土器器 环	口径：(12.4) 底径：— 器高：残4.5	外面：口縁部ヨコナデ。体部摩耗。 内面：磨耗。	①チャート・白色粘・ 暗赤褐色粒 ②内外：根		口縁～体部1/3残存。

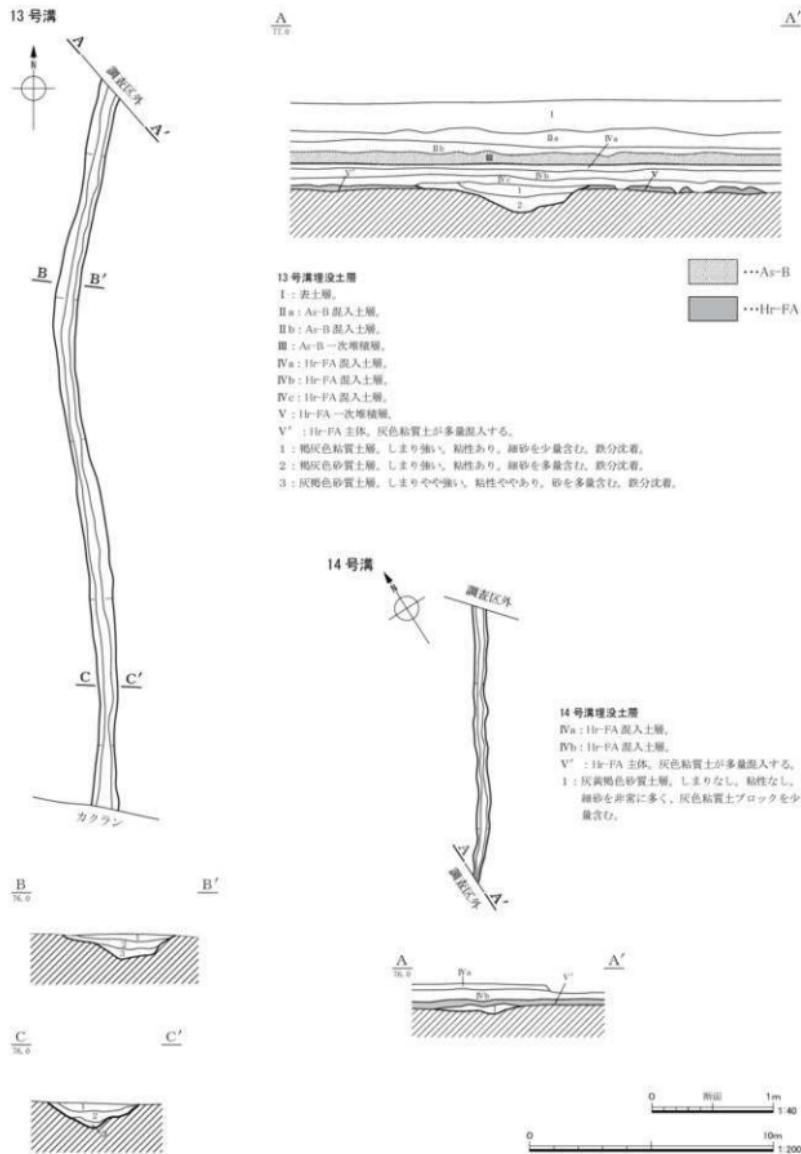


第28図 4区 Hr-FA 層下水田跡

第7表 Hr-FA 層下水田跡区画計測表

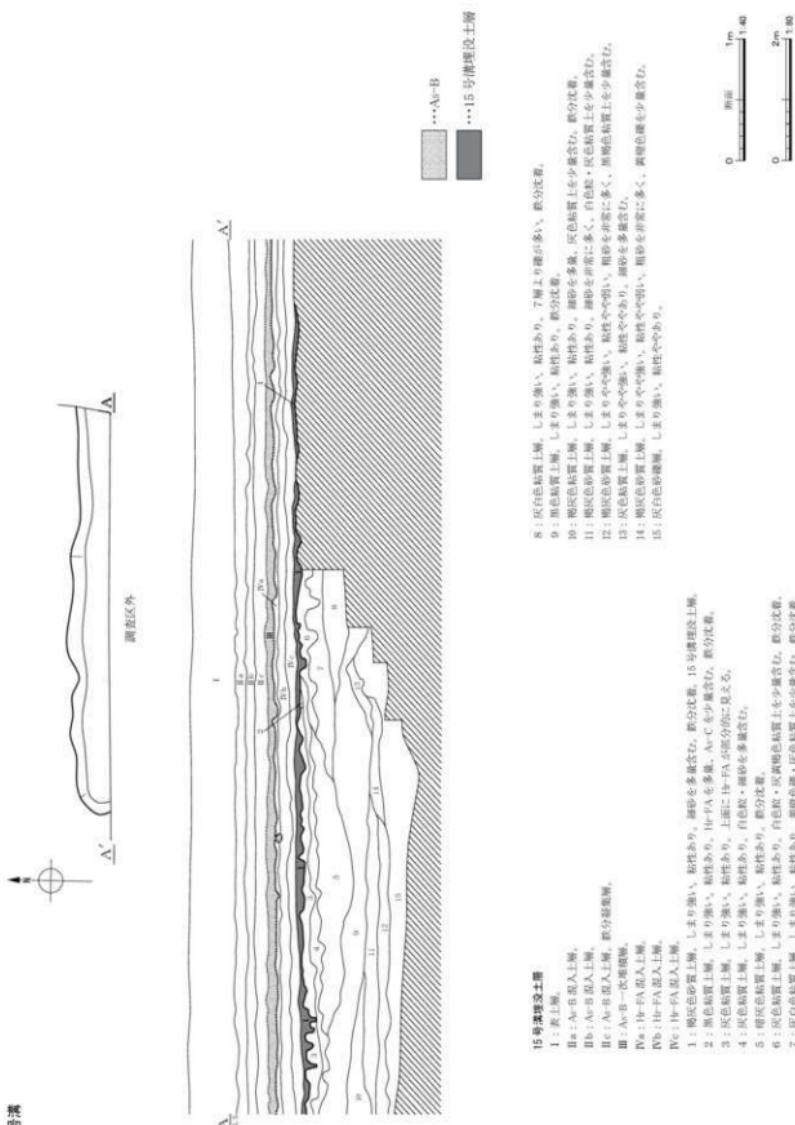
面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値。畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画No.	面積(m ²)	南北軸(m)	東西軸(m)	田面中央標高(m)	田面比高(cm)	南北畦畔高(cm)	南北畦畔幅(cm)	東西畦畔高(cm)	東西畦畔幅(cm)	備考
2区	1	—	—	—	75.66	0	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	75.64	0	2	33~49	—	—	—
	3	—	4.22	—	75.64	1	—	—	2	27~29	—
	4	—	4.00	—	75.62	2	1	32~39	3	35~36	—
	5	—	5.72	—	75.65	1	—	—	3	35~39	—
	6	—	5.59	7.62	75.60	0	1	39~54	2	38~45	—
	7	—	—	—	75.62	0	0	45~51	—	—	—
	8	—	4.90	—	75.61	0	—	—	0	42~45	—
	9	26.3	4.30	5.94	75.57	2	1	40~42	2	39~41	—
	10	14.2	3.73	3.83	75.58	5	1	32~48	1	49~55	—
	11	—	—	—	75.59	0	1	43~50	—	—	—
	12	—	6.55	—	75.56	2	—	—	2	34~39	—
	13	67.0	7.32	9.42	75.52	3	1	37~54	2	38~50	—
	14	—	6.89	—	75.56	3	1	31~58	0	31~33	—
	15	—	—	—	75.51	0	—	—	2	31~33	—
	16	—	—	2.70	75.52	1	5	32~52	2	40~49	—
	17	—	—	3.65	75.49	1	5	40~62	2	40~47	—
	18	—	6.64	—	75.51	4	3	37~52	1	32~45	—
	19	—	—	—	75.55	0	—	—	1	34~49	—



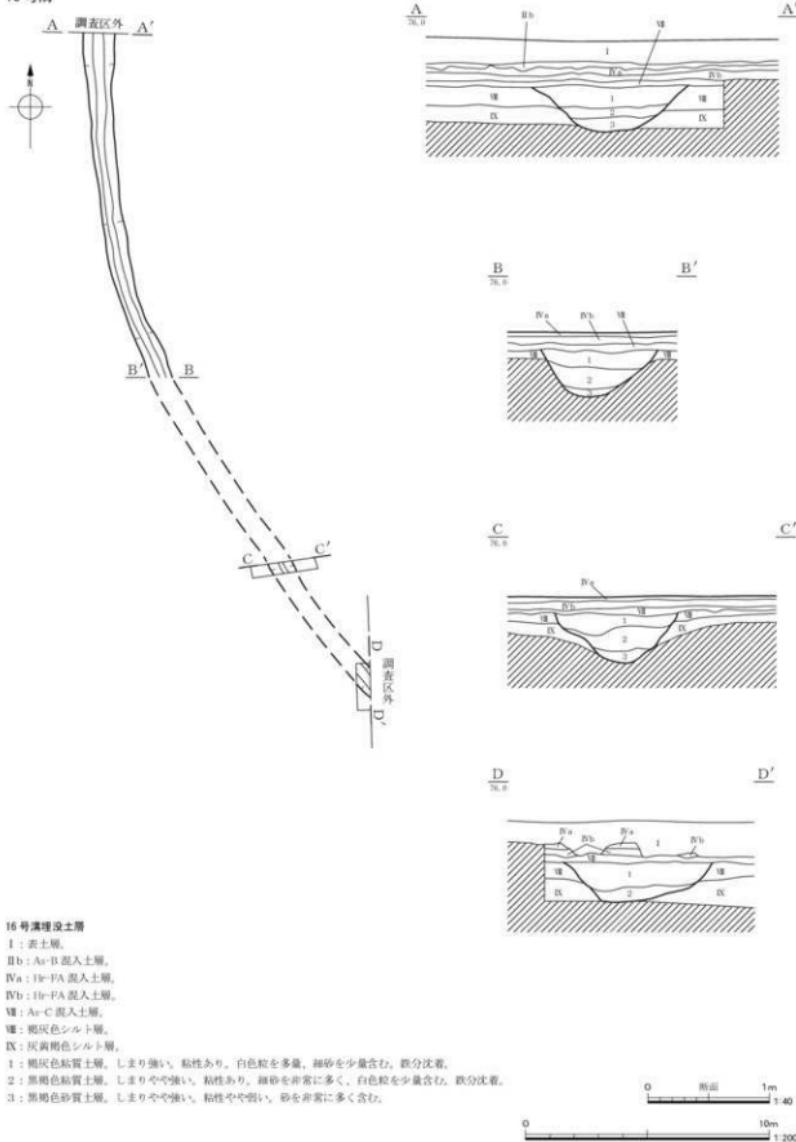
第29図 古墳時代から平安時代の溝（1）

15号溝



第30図 古墳時代から平安時代の溝（2）

16号溝



第31図 古墳時代から平安時代の溝（3）

VIII まとめ

今回の調査では、古墳時代から中近世に至る土地利用の変遷を把握することができた。本遺跡は後背湿地に立地することから、古墳時代から近現代に至るまで、主に水田城として利用され続けてきた。周辺では多くの発掘調査事例が蓄積されており、前橋南部地区における様相が広い範囲で明らかになりつつある。以下では、これらの事例を踏まえ、調査成果を概観していきたい。

Hr-FA 層下水田跡（第32図）

Hr-FA 層下の水田跡は2・4区で検出された。同様の水田跡は西田遺跡、下阿内町畠遺跡、南部拠点地区遺跡群No.1でも確認されている。しかし、ほとんどが後世の耕作などにより水田面は残存せず、明瞭な区画も認められない。小区画を形成する畦畔を確認することができるは、本遺跡2区、西田遺跡E区、下阿内町畠遺跡2区のみである。Hr-FA 層下水田跡には、いわゆる「極小区画水田」と呼ばれる、区画が極端に小さく（面積3~10 m²前後）、碁盤目状に整然と造られる水田が多く見られる。本遺跡2区では面積が最小で14.2 m²、最大で67.0 m²を測る。極小区画水田に比して大型で、面積の差が大きく規模の異なる区画が混在する状況であった。

本遺跡2区水田跡は北東側に展開する下阿内町畠遺跡2・3区および南部拠点地区遺跡群No.1-2a区に、本遺跡4区水田跡は北西側に展開する南部拠点地区遺跡群No.1-5b区に連続することが見込まれる。これらは自然地形に沿った造成が窺われ、当時の低位面に位置するものと推測される。これらの水田に伴う水路としては、Hr-FA 降下以前に埋没する本遺跡14号溝および南部拠点地区遺跡群No.1-5区18号溝、Hr-FA によって直接埋没する南部拠点地区遺跡群No.1-5区19号溝が挙げられる。

なお、水路と想定される溝が多数検出されているが、大半は本遺跡13号溝のようにHr-FA 降下後に開削されたものである。本遺跡13号溝は下阿内町畠遺跡7号溝、南部拠点地区遺跡群No.1-2・3区1a号溝、西田遺跡260ないし268号溝と同一の溝と予想され、西田遺跡252・280号溝が接続する。これらの溝はHr-FA 層下水田跡の検出位置と重なっている。水田跡に残る後世の耕作痕の存在から、溝の周辺には水田が広がっていたと考えられ、Hr-FA 降下後も降下前の分布域を踏襲して水田が造成されていた様相が窺える。

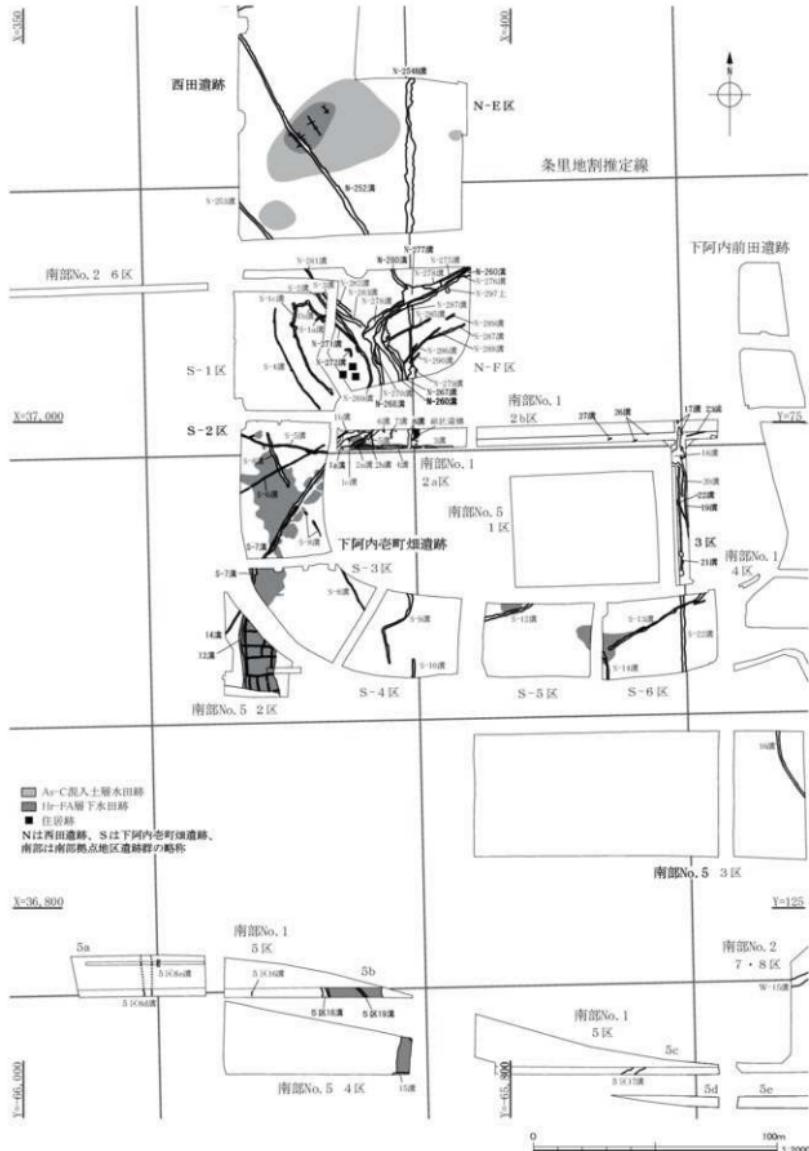
As-B 層下水田跡と条里地割（第33図）

As-B 層下の水田跡には、「条里地割」と呼ばれる一町（約109 m）四方を単位とする方格地割が認められる。条里地割の最小単位である一町四方の区画を坪と呼び、これを縦横6個ずつ並べた六町方格の区画を里という。本遺跡を含む前橋南部地区的As-B 層下水田跡では、坪境の大畦畔や水路などの検出により、条里地割に基づいた水田造営を行っていることが判明した。第33図に図示した範囲について概観すると、各大畦畔間の距離は約110 mを測る。南北大畦畔はN-0°ないしN-1°-Wを指し、わずかに西へ傾いて設定されている。東西大畦畔はN-89~91°-Eを指し、南北大畦畔にはほぼ直交するようである。

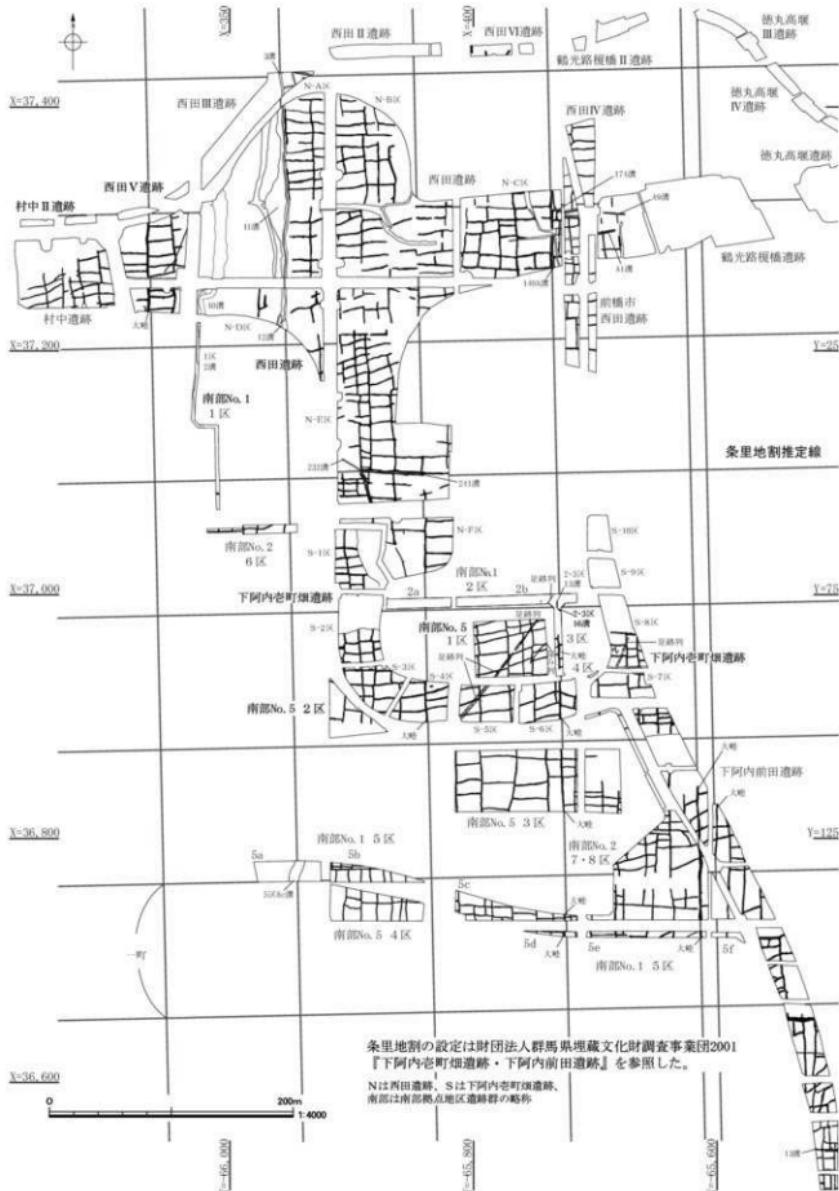
水田には水の給排水が不可欠であるが、本遺跡一帯の幹線水路と想定される溝が坪境ライン上に検出されている。西田III遺跡3号溝、西田遺跡11・12号溝、南部拠点地区遺跡群No.1-5区8c号溝がこれに当たる。北から南へ流下する幅広い溝で、走行方位は概ね南北大畦畔と同方位を指す。西田遺跡と南部拠点地区遺跡群No.1の間に位置する南部拠点地区遺跡群No.2-6区では溝が検出されないため、これらの溝が一連のものは検討を要するが、仮に連続すれば、走行距離663 m（六町=一里）以上の長大な灌漑施設が敷かれていたことになる。

1号足跡列（第33図）

足跡列は1・2・4区で計15列検出された。中でも1区で検出された1号足跡列は本遺跡を挟み、南部拠点地区遺跡群No.1-2b区から下阿内町畠遺跡5区にかけて、約130 m以上の距離を直線的に歩行しており特筆される。本遺跡での足跡の形態から、北東から南西へ向かって歩いていると判断した。走行方位はN-38°-Eを



第32図 古墳時代から平安時代における周辺の水田関連遺跡



第33図 平安時代末期における周辺の水田関連遺跡

指す。畦畔の上を踏み潰し、水田区画を斜めに横切っている。この足跡列の南西延長線上には南部拠点地区遺跡群No.1~5b区が位置するが、ここでは足跡列は検出されない。途中で方向を変えるか、歩き終わるものと思われる。足跡列は幅が広く、列幅は本遺跡で約0.8~1.6m、下阿内宅町畠遺跡で約2.0~2.6mを測り、その間には多数の足跡や円形・不整形の小溝みが確認される。本遺跡では個々の足跡がはっきりせず、幅広の溝みとなる箇所も多いが、下阿内宅町畠遺跡では明瞭に検出され、複数人の歩行が見込まれる。また、円形・不整形の小溝みについては、牛馬などの足跡である可能性も考慮される。

As-B 層下水田面の状態（第34図）

水田面には様々な痕跡が残されているが、大半は成因のはっきりしない凹凸である。この凹凸の深さを基準に概観すると、①ならかかで、凹凸があってもごく浅い面、②高低差2~3cmほどの凹凸がある面、③高低差3~6cmほどの深い凹凸がある面の3種類に大別できる。①は

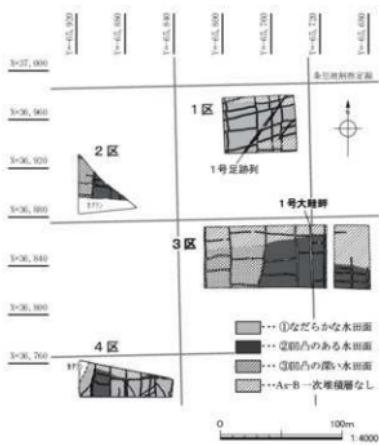
1・4区で確認された。両区とともに足跡列が検出され、畦畔に沿って歩行するものと、区画方向に対して斜めに歩行するものがある。後者が田の水を管理する重要な土壁である畦畔を踏み潰していることから、1・4区は水田として利用されていなかった可能性が高い。②は2~4区、③は2・3区で確認された。③は凹凸が足の裏に当たって歩き辛いほどで、特に2区の区画32は顕著であった。2・4区では足跡列が検出された。2区は状態の異なる②と③の区画間を歩行しており、①同様に畦畔を踏み越えている。しかし、2・4区ともに①の足跡列とは異なり、走行方位が畦畔に並行していることから、何らかの農耕作業に伴う可能性も考えられる。

なお、4区では①と②が混在するが、どちらの区画も畦畔は高く明瞭に残り、違いは見られない。②・③が混在する2区も4区と同様で、畦畔の状態に違いはなく、概ね高く残っている。同じく②・③が混在する3区の畦畔は、2区とは異なり全体的に低く崩れているものの、やはり3区内での差はなかった。このように、畦畔に違いは認められるが、水田面の差異と畦畔の残存状態に関連性は見出せなかつた。後世の削平を受けるAs-B層下水田跡において、埋没当時の水田状態を判断するには、畦畔の状態より水田面を観察する方が有効と言えよう。

以上のように、区画によって水田面に違いがあり、それらの異なった区画が一坪内に混在している様子が看取できた。平安時代後期の水田耕地の中に、休耕田および耕作放棄されていた水田が広範に存在していたことは、既に文献史学の立場から明らかにされている（戸田1969）。本遺跡の水田面の内、①の状態は休耕田あるいは放棄された田を表す可能性が高いと思われる。②・③の状態については、根拠に乏しく耕作田・休耕田を断定することは難しい。どちらにせよ、明らかに様相の違う区画が存在することから、本遺跡の水田面は、様々な状態の水田が混在していた当時の景観の在り方を表していると理解して良いのではないだろうか。

主要参考文献

- 前橋市理農文化財発掘調査団 1996『西田遺跡』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 1999『西田Ⅲ遺跡』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 1999『西田Ⅳ遺跡』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 2001『應人山遺跡・西田Ⅴ遺跡』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 2001『付中Ⅱ遺跡・西田Ⅵ遺跡』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群No.1』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群No.2』
- 前橋市理農文化財発掘調査団 2001『下阿内宅町畠遺跡・下阿内前田遺跡』
- 財团法人群馬県理農文化財調査事業団 2001『宿横手三波川遺跡』
- 財团法人群馬県理農文化財調査事業団 2002『轟光路規模遺跡』
- 財团法人群馬県理農文化財調査事業団 2002『西田遺跡・村中遺跡』
- 前橋市史記さん委員会 1971『前橋市史』第1巻
- 工業書院 1991『水田の考古学』東京大学出版会
- 高井准介 2006『平安時代後期水田耕作の一種相』『生業の考古学』同成社
- 田村 季 2003『発掘された水田』『新編必崎市史』通史編1
- 高崎市市史記さん委員会 2009『新編必崎市史』通史編1
- 戸田芳実 1969『中世初期農業の一特質』『日本領主制成立史の研究』岩波書店
- 町田一洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』東京大学出版社

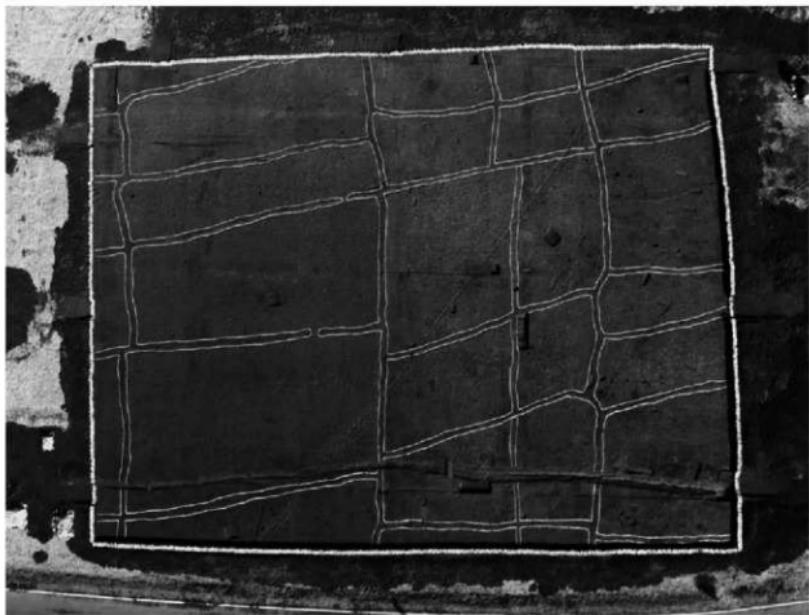


第34図 As-B層下水田面の状態

写 真 図 版



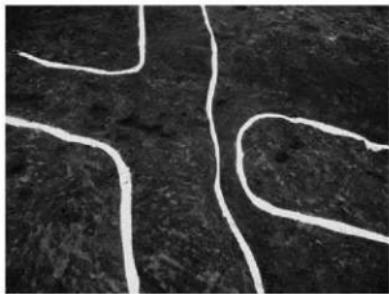
名古屋市立農業試験場の水田調査風景



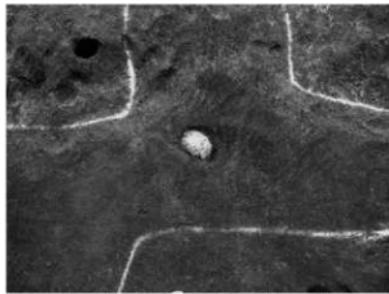
1区第1面全景（上が北）



1区 As-B 層下水田跡（南西から）



1区 As-B 層下水田跡 水口6（西から）



1区 As-B 層下水田跡 畦畔堆积出土状況（北から）



1区 As-B 層下水田跡 1号足跡列（北東から）

図版 2



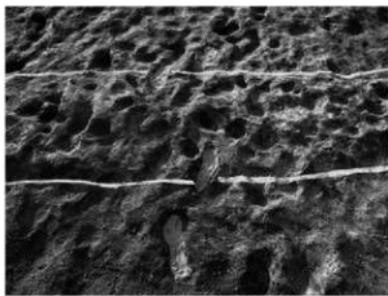
2区第1面全景（上が北）



2区 As-B 層下水田跡 (東から)



2区 As-B 層下水田跡 畦畔 (北から)



2区 As-B 層下水田跡 2号足跡列 (東から)



2区 As-B 層下水田跡 作業風景 (西から)



3区第1面全景（上が北）



3区 As-B層下水田跡（東から）

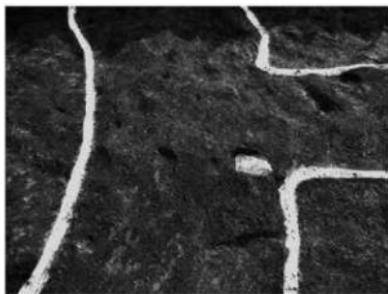
図版 4



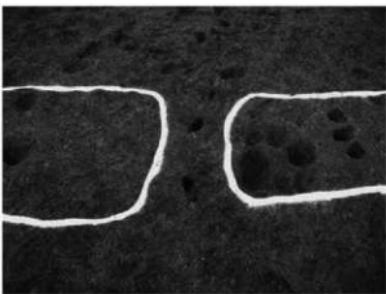
3区 As-B層下水田跡 1号大畦畔（北から）



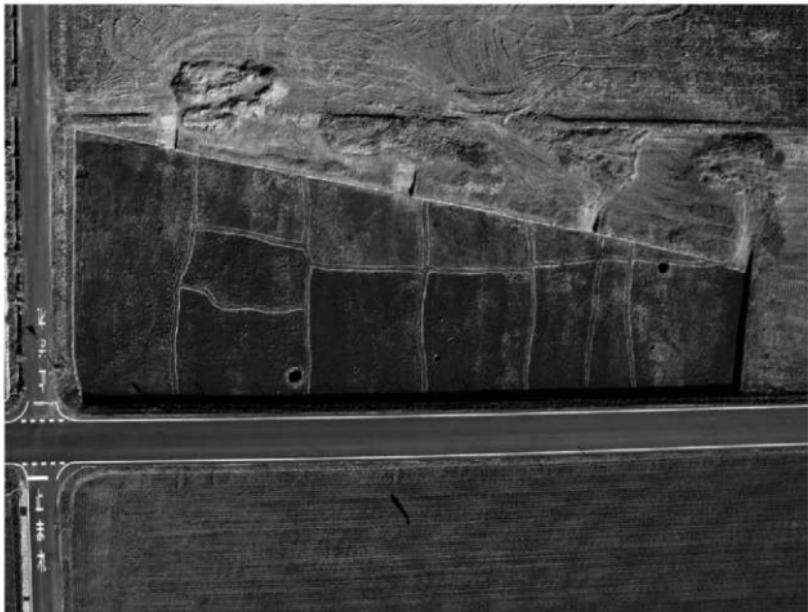
3区 As-B層下水田跡 畦畔（北から）



3区 As-B層下水田跡 畦畔縦出土状況（北から）



3区 As-B層下水田跡 水口 11（北から）



4区第1面全景（上が北）



4区 As-B層下水田跡（北東から）



4区 As-B層下水田跡 畦畔（東から）



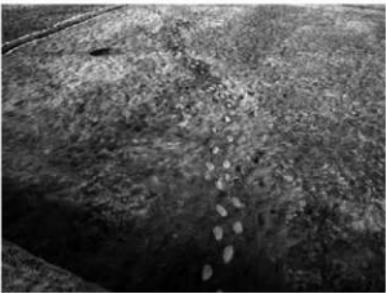
4区 As-B層下水田跡 畦畔（南東から）



4区 As-B層下水田跡 畦畔断ち割り（北から）



4区 As-B層下水田跡 水口13（南東から）



4区 As-B層下水田跡 14号足跡列（南東から）



4区 As-B層下水田跡 足跡近景（北西から）



4区 As-B層下水田跡 作業風景（南西から）

図版 6



2区 Hr-FA層下水田跡（南から）



2区 Hr-FA層下水田跡（南から）



2区 Hr-FA層下水田跡 畦畔（北から）



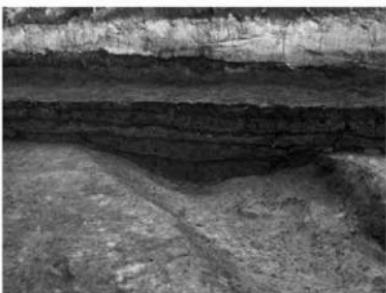
2区 Hr-FA層下水田跡 畦畔（南東から）



2区 Hr-FA層下水田跡 遺物出土状況（南から）



13号溝全景（南から）



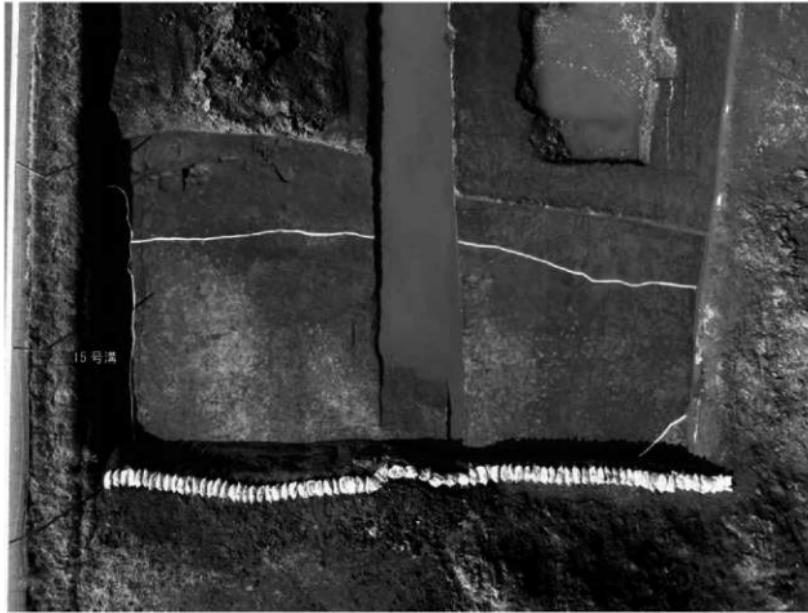
13号溝断面（南西から）



14号溝全景（南から）



14号溝断面（北東から）



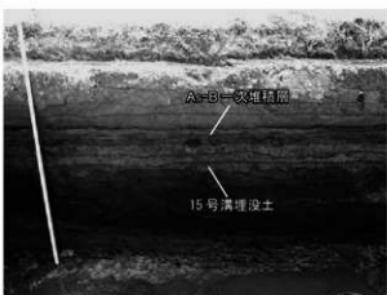
15号溝

4区 Hr-FA 層下水田跡（上が西）

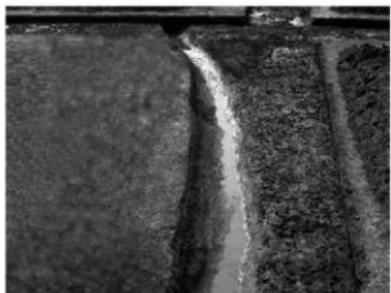
図版 8



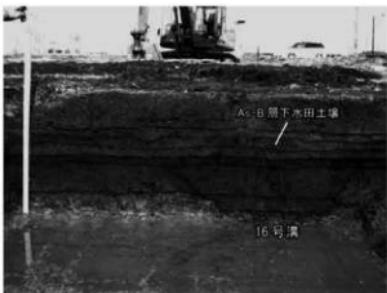
4区 Hr-FA 層下水田跡 断ち割り（南から）



15号溝断面（北から）



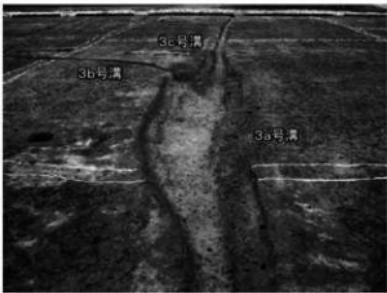
16号溝全景（北から）



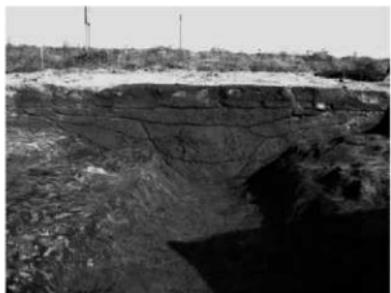
16号溝断面（南から）



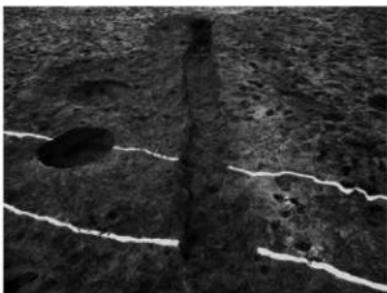
2号溝全景（北から）



3号溝全景（北から）



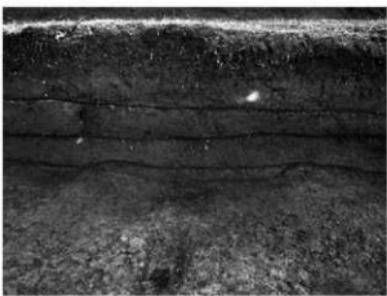
3号溝断面（南から）



4号溝全景（東から）



5号溝全景（北から）



5号溝断面（北から）



6号溝全景（北から）



7・8号溝全景（北から）



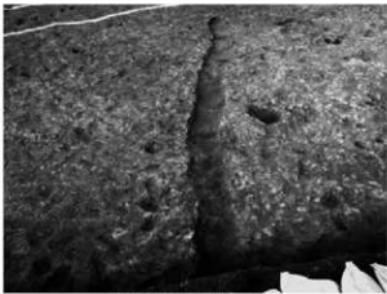
9号溝断面（南から）



10号溝全景（西から）

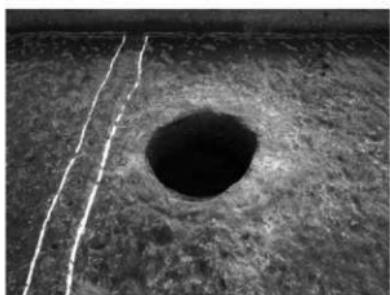


11号溝全景（東から）

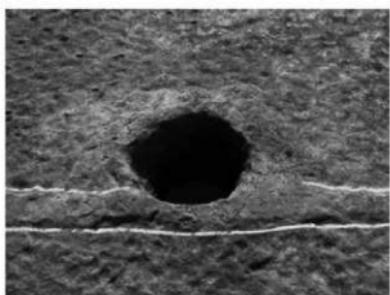


12号溝全景（南から）

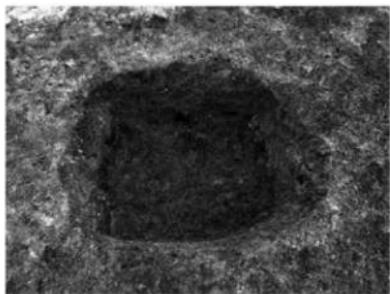
図版 10



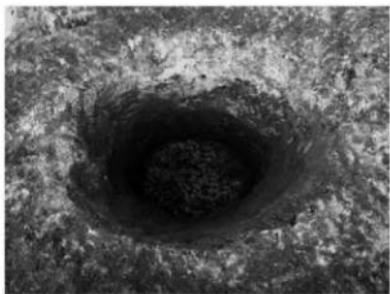
1号土坑全景（北から）



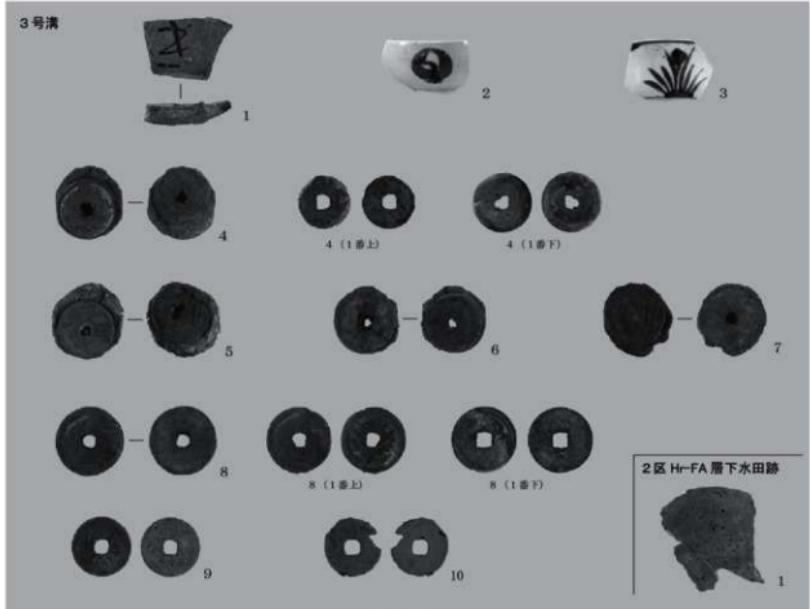
2号土坑全景（北から）



3号土坑全景（南から）



11号土坑全景（南から）



出土遺物

抄 錄

ふりがな	なんぶきよてんちくいせきぐん
書名	南部拠点地区遺跡群No.5
副書名	前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.5
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	神宮聰 有山経世
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2-10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦2010(平成22)年9月30日

所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
ナンブキヨテンチク 南部拠点地区 遺跡群No.5	群馬県前橋市 シモウタツコロ 下阿内町 パレナ 4番地ほか	市町村 遺跡 番号 10201 21668	36° 19' 50"	139° 06' 12"	20091214 ～ 20100327	15,135 m ²	前橋市南部拠 点東地区土地 区画整理事業
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
南部拠点地区 遺跡群No.5	生産	古墳時代 平安時代 中近世以降	Hr-FA層下水田跡 溝4条 As-B層下水田跡 溝12条 土坑18基	土師器、須恵器 陶磁器、在地系 土器、寛永通宝	広範囲に検出さ れた As-B層下 水田跡。 Hr-FA層下の水 田跡。		

南部拠点地区遺跡群No.5

前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.5

平成22年9月24日 印刷

平成22年9月30日 発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市教育委員会

〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2-10-2

TEL 027-231-9531

印刷／朝日印刷工業株式会社